

## 2.6 四国防災八十八話研究会

四国は自然災害の多発地である。台風や地震などにより、これまで多くの命が失われている。この悲惨な体験は、文章や言い伝えという形で残されてきている。四国防災八十八話は、四国中に残されてきている貴重な教えを集めて、水害、土砂災害、地震・津波、高潮、濁水という災害別にまとめたものである。そして、これをもとに、マンガと紙芝居という形で児童が目にしやすい形にも編集して、HPにアップ (<http://cdmir.jp/download/>) してある。

四国防災八十八話研究会では、この成果を広く活用してもらうために、児童・生徒を対象に読書感想文コンクールを実施してきている。

今年度は、平成23年度愛南町防災教育推進懇談会事業の一環として、愛媛大学防災情報研究センター企画事業として平成23年度「四国防災八十八話感想文コンクール」を実施した。

実施要領は次のとおりである。

### 1. 目的

災害に脆弱な地勢である上に地球温暖化によりその頻度増加と強大化が懸念される気象災害や南海地震等の大地震が迫り来ようとしている現実の中、「四国防災八十八話」や「災害体験談聞き取り調査」をモチーフに、尊い犠牲を伴った先人の経験や知恵を学びそれを自分の経験や知恵とする(経験の共有)ことにより、児童生徒の防災力と防災意識の向上を図ることを目的とします。

### 2. 内容

四国防災八十八話冊子を読んで或いは四国防災八十八話紙芝居DVDを視聴しての感想文を募集します。今年度、「災害体験談聞き取り調査」を実施した小中学校(家串小学校・柏小学校・平城小学校・菊川小学校・長月小学校・中浦小学校・赤水小学校・内海中学校・御荘中学校)については、災害体験談聞き取り調査に取り組んでの感想文でも可とします。

#### (1) 対象校

町内全小中学校

#### (2) 文字数

① 小学校 400 字程度

② 中学校 800 字程度

#### (3) 募集点数

各校3点以内

#### (4) 応募締切

平成24年1月27日(金)

### 3. 入賞者表彰・作品発表

日時 3月25日

会場 愛南町実生文化センター

小学校の部, 中学校の部からそれぞれ最優秀賞 1 名, 優秀賞 2 名, 審査員特別賞 1 名を選定した。

最優秀賞	小学校の部	愛南町立城辺小学校	6 年	飯田 雛子
	中学校の部	愛南町立一本松中学校	1 年	岩村 茉奈
優秀賞	小学校の部	愛南町立城辺小学校	6 年	池田 遥乃
		愛南町立久良小学校	6 年	二宮 紗弥
	中学校の部	愛南町立内海中学校	2 年	兵頭 輝
		愛南町立御荘中学校	1 年	丸田 洋渡
審査員特別賞		愛南町立城辺中学校	3 年	丸田 妃菜

入賞作品は, (<http://cdmir.jp/download/>) にアップしています。

## 2.7 愛媛大学GIS研究会

### 2.7.1 平成23年度愛媛大学GIS研究会

日時：平成23年10月17日（月）15:00～17:00

場所：愛媛大学社会連携推進機構 2階 研修室

参加者：22名

プログラム：

1. GIS研究会の活動経過・今後  
愛媛大学GIS研究会代表 山岸 宏光
2. 講演「持続的な森林経営とGIS」  
中部大学 中部高等学術研究所 国際GISセンター准教授 竹島 喜芳 氏
3. 講演「空中写真とGISを用いた山地崩壊地の長期解析」  
愛媛大学 農学部准教授 戎 信宏
4. 国土地理院からのお知らせ  
国土地理院四国地方測量部次長 清水 乙彦 氏



会場の様子

豪雨による山地崩壊の解析など、GISを活用した研究について説明する愛媛大農学部の戎信宏准教授。17日午後、松山市文京町

山地崩壊対策  
GIS活用を  
愛媛大で研究会  
地理情報システム

（GIS）の利用促進などを目的に、愛媛大GIS研究会（代表・山岸宏光教授）が17日、松山市文京町の同大で

あり、大学教員2人が台風災害で崩壊した山地の解析や森林経営など活用事例について講演した。

行政職員や企業関係者など約20人が参加。愛媛大農学部の戎信宏准教授は、2003年の台風による豪雨で山地崩壊が起きた北海道日高地方での共同研究を紹介した。1963年から10年おきに撮影された航空写真を画像処理しGISに入力す

ることで、崩壊地を特定。崩壊部分の形状や勾配などを、崩壊要因の解析に役立てていると説明した。

中部大（愛知県春日井市）の竹島喜芳国際GISセンター准教授は「持続的な森林経営」をテーマに話し、GISを使い森林資源量を把握することで、予定出材量などを管理でき、林業振興につながると提案した。

（杉本賢司）

愛媛新聞 10月18日

## 2.7.2 GIS Day in 四国 2011

日 時：平成 24 年 11 月 15 日（火） 10：00～17：00

会 場：愛媛大学総合情報メディアセンター メディアホール，演習室

主 催：愛媛大学 GIS 研究会，愛媛大学防災情報研究センター

共 催：国土交通省国土地理院四国地方測量部，（社）地理情報システム学会

後 援：愛媛大学地域創成研究センター，（社）愛媛県測量設計業協会

協 賛：ESRI ジャパン(株)，(株)古今書院

参加者：20 名

プログラム：

セミナー（メディアホール）

1. 開催挨拶 愛媛大学防災情報研究センター副センター長 板屋 英治
2. 「防災のための GIS 入門」 愛媛大学 GIS 研究会代表 山岸 宏光

GIS 実習（メディアセンター内 演習室）

3. GIS 実習 1 講師 同上 山岸 宏光
4. GIS 実習 2 講師 愛媛大学 GIS 研究会事務局長 助教 バンダリネトラ
5. 閉会挨拶 国土地理院四国地方測量部次長 清水 乙彦 氏

このイベントは 2009 年以来毎年開催していますが、今回は、3 月 11 日の東日本大震災をうけて、四国でも、東南海・南海地震も想定されていることから、県や市町の防災担当者に GIS の基本を普及することを目的として、1. 「防災のための GIS 入門」のセミナーと 2. 簡単な GIS 実習を実施した。参加者は学生、自主防災組織、自治体等であった。



板屋副センター長の挨拶



山岸先生による実習

**GIS 防災に活用**

愛媛大 行政職員ら11人実習



地図上にさまざまな位置情報を表示できる「地理情報システム(GIS)」を防災に役立ててもらおうと15日、松山市文京町の愛媛大でGIS実習があり、行政職員やコンサルタント業者ら11人が基礎や活用方法を学んだ。愛媛大GIS研究会(代表・山岸宏光教授)と愛媛大防災情報研究センターが開き、3回目。今回は東日本大震災などを受け、防災をテーマに選んだ。

山岸代表が、国土地理院などのサイトから地図情報や衛星画像などを入手する方法を紹介した。続いて参加者たちは愛南町の避難所データのGIS入力に挑戦。避難所の住所から緯度と経度を割り出し、GIS上に打ち込んだ。東予地域の地滑りハザードマップ作りなどにも取り組んだ。

山岸代表は「無料ソフトが増え、GISの利用環境も充実してきた。ぜひ技術を身に付けて広く活用してもらいたい」と呼び掛けている。(杉本賢司)

愛媛大GIS研究会の山岸宏光代表(左)の説明を受けながら、データ入力に取り組む参加者  
=15日、愛媛大

愛媛新聞 11月16日

## 2.8 要援護者避難支援研究会

平成 23 年 10 月 9 日（日）に、新居浜市による平成 23 年度総合防災訓練が実施されました。本年は、山根公園にて、新居浜市・上部地区小学校区区民・新居浜市消防本部・署消防団（女性消防団含む）・婦人防火クラブ・新居浜警察署・大生院小学校・愛媛大学・新居浜市医師会・新居浜市社会福祉協議会・四国電力・新居浜市医師会、国土交通省四国整備局、愛媛県エルピーガス協会新居浜支部、新居浜市管工事業協同組合が参加しました。愛媛大学防災情報研究センターからは、アジア・地域防災情報ネットワーク部門二神准教授、大学院理工学研究科 BHANDARY Netra Prakash 助教、大学職員 1 名、愛媛大学留学生・環境建設工学科学生 24 人が参加しました。

「10 月 9 日 8 時 00 分に、南海トラフを震源とする地震が発生し、新居浜では震度 6 弱を記録、瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された。この地震で多数の建築物が倒壊、多くの負傷者が出ており、火災やライフライン被害も市内全域に及んでいる。」というシナリオの下、住民は校区各自治会別に山根グラウンドに徒歩で避難しました。

総合訓練では、食料炊き出し訓練、煙体験、要援護者疑似体験、土石流 3D 体感シアター、豪雨体験、土嚢作成体験、起震車等のイベントが準備されていました。さらに、要援護者が地域支援者と車いすで避難するなど、実際の災害に備えた有意義な訓練を行っていました。

愛媛大学参加者は、グループに分かれて、上述したイベントを体験しました。多くの参加主体が、役割分担を認識しながら、楽しく訓練に参加していました。

避難訓練を通じ、災害時に地域から被災者を出さないためにも、要援護者を地域で支えることが大事であると再認識しました。



要援護者自身も地域支援者と訓練に参加



車椅子と器具による要援護者疑似体験

## 2.9 BCP研究会

### 2.9.1 建設業BCP懇談会愛媛県部会・同幹事会

これまで、建設業の業務継続計画（BCP）普及啓発に関し、四国地方における取り組みとして、国土交通省四国地方整備局、四国4県、徳島大学、香川大学、高知大学、高知工科大学、愛媛大学及び四国4県建設業協会等が連携し、平成21年1月に建設業BCP懇談会（会長 中野晋徳島大学教授）を設立し、各県に部会をおき、BCPに関する様々な取り組みを展開してきた。

このような経緯から、愛媛県内の建設産業におけるBCP（事業継続計画）の普及・啓発を目的に、建設業BCP懇談会愛媛県部会（部会長：柏谷 NPO法人愛媛県建設技術支援センター理事長）が設立された。

平成23年1月28日に建設業BCP懇談会愛媛県部会・幹事会（以下、幹事会という。）で決定した、平成23年度事業計画に基づき、平成23年度のえひめ建設BCP研究会の開催など研究会活動を展開することとなった。

また、平成23年6月13日に開催された幹事会では、えひめBCP研究会における認定更新企業への対応、協会レベルでのBCPの対応、表彰制度の拡充等について検討が行われた。

### 2.9.2 えひめ建設BCP研究会の開催

建設業BCP懇談会におけるBCP普及活動の一環として、平成21年8月に四国建設業BCP等審査会（会長 中野晋徳島大学教授）を設立し、整備局の一般土木C等級の四国内建設業者に対する事業継続計画等の認定制度の運用が始められた。この認定制度により、四国地方整備局の発注する土木工事における総合評価落札方式の加点要素として取り扱い、建設業におけるBCP等の策定にインセンティブを付与することとされた。



四国地方整備局に続き、愛媛県では、平成23年3月27日に愛媛県建設業審査会が開催され、平成24年度を目処に県発注の総合評価落札方式の加点要素として評価する見通しが示された。そこで、これに先立ち、愛媛県内建設業者のBCP審査体制として、平成23年3月14日に、えひめ建設業BCP等審査会（会長：柏谷 NPO法人愛媛県建設技術支援センター理事長、委員：板屋ほか）が設立され、県の一般土木A等級の建設業者を対象に、4月から申請を受け付ける体制が整えられた。

これらの状況を踏まえつつ、県内建設業者のBCP策定を支援するため、平成23年度においても「えひめ建設BCP研究会」が開催され、平成23年4月に第4期62社（東予21社、中予16社、南予25社）、9月に第5期41社（東予17社、中予16社、南予8社）が研究会に参加した。また、平成23年度から認定の継続更新の企業のために9月に第1回を開催し、県内の19社が参加した。

また、平成24年4月に開催される第6期の募集にあたっては、県の一般土木A等級に加え、B等級まで募集企業の対象が広げられた。

## 2.10 津波災害対策実地検証

### 2.10.1 研究実施方針

津波から人的被害の防災・軽減を図るため、平成 23 年 8 月に愛媛県から研究委託を受け、現地での実地検証等により、現行の避難誘導方法、避難地、避難路の安全性等について確認、検証を行うとともに、住民の意識等を調査し、津波災害対策における課題の抽出や今後の対策の検討等を行った。

### 2.10.2 調査対象・範囲

対象とする地震の想定は、安政南海地震とし、調査対象・範囲は宇和海沿岸地域の宇和島市、八幡浜市、西予市、伊方町、愛南町の 5 市町とした。

### 2.10.3 調査内容

- ・各市町の避難場所や避難経路、津波情報の伝達方法等の調査
- ・過去の津波災害に関する調査
- ・住民の意識調査
- ・瀬戸内海沿岸地域や津波以外の災害にも共通する対策や避難所に関するあり方や考え方の整理 など

### 2.10.4 研究体制

防災情報研究センターとして、矢田部センター長、板屋副センター長、二神准教授、松本准教授で調査体制をつくり、適宜分担し調査、取りまとめ、情報発信等を行った。なお、今回の現地での実地調査等の実施にあたっては、松山大学の森岡千穂講師のご協力も得て実施した。また、現地での実地調査では、愛媛県、各市町の防災担当者にご協力いただくとともに、一部調査地域においては、自主防災組織の代表の方等のご協力を得ながら実施した。

### 2.10.5 実地検証の概要

#### 1) 各市町の避難場所や避難経路の調査

現状調査（各市町防災担当者からの情報収集）と実地調査により、避難場所と避難経路の現状等を把握した。

#### ①一次避難場所の位置情報の整理

宇和海沿岸地域 5 市町の平成 23 年 8 月時点での一次避難場所の位置情報を、各市町防災担当者より収集した。

なお、ここでは、災害発生時等に初めに避難する場所を「一次避難場所」（さらに高い避難場所を二次、三次・・・）とし、一時避難場所と区別し使用した。



## ②実地調査内容の検討

①で得た一次避難場所の GIS 情報を Google Earth 上にプロットし、地図上から得られる地理的特徴等について確認を行った。

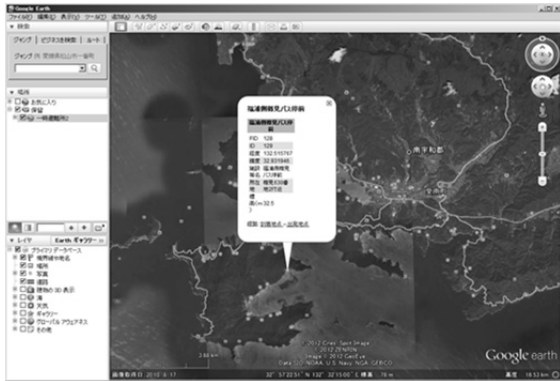


図1 Google Earth 上にプロットした  
一次避難場所位置情報イメージ（愛南町）

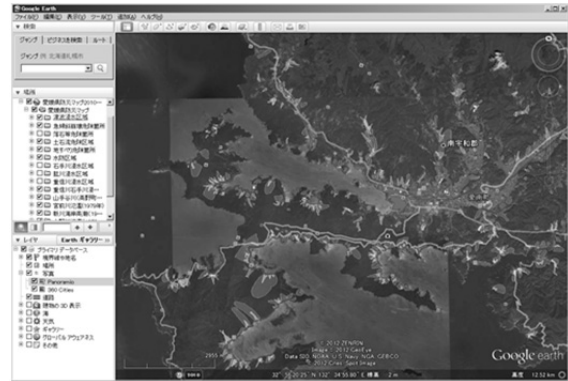


図2 津波浸水区域等のプロットイメージ

## ③実地調査場所の検討

5 市町の一次避難場所の位置情報等を踏まえ、各市町の実地調査場所を選定した。

## ④実地調査

実地調査を以下の日程で実施した。

- 平成 23 年 12 月 16 日 西予市
- 平成 23 年 12 月 26 日 伊方町
- 平成 23 年 12 月 26 日・27 日 愛南町
- 平成 24 年 1 月 6 日 宇和島市
- 平成 24 年 1 月 13 日 八幡浜市

なお、実地調査の実施にあたっては、予め当センターで用意していたチェックリストを用い、避難場所の状況を確認するとともに、GPS 機能付デジタルカメラ等によって位置情報を記録しながら現地での撮影を行った。また、現地において必要に応じ調査場所の追加・変更を行った。

## 2.10.6 実地検証結果の概要と今後の課題

本調査において、一次避難場所の位置情報を確認し、市町の要望等を踏まえ、その一部を抽出し、実地検証を行った。その結果、一次避難場所で配慮すべき点等の主な項目を抽出し、整理した。

今回の実地検証では、当初、避難場所の適否の判断を行うことを予定していたが、政府における動き等を踏まえ、地域に無用な混乱等を与えることのないよう配慮し、改善点や注意すべき点等の整理にとどめている。これらの点については、引き続き、今後の点検や検証等を行うにあたっての参考にするるとともに、新たな知見等を踏まえ、適時適切に見直しを行っていく必要がある。

今後、政府から示される、新たな東南海・南海地震等大規模地震による震度、津波高さに基づく、被害想定等を踏まえ、今回実地検証を行った知見、収集された避難場所に関するデータ等を活用し、宇和海沿岸域をはじめ、従前の想定を超える地域においても、現行の一次避難場所の見直し、新たな一次避難場所の確保等を行っていくことが求められる。

さらに、東日本大震災の教訓を踏まえ、一次避難場所の確保等を受け、大規模地震発災時から大津波警報発令時等の時間的経過とともに、避難場所の移動、避難所の運営等について検証等を行っていくことが必要である。あわせて、災害救助法の規定等を踏まえ、県、市町の役割分担のもとに避難時に適切に機動的に対応できるかどうかなど、現行の組織等の検証を行い、地域防災計画の見直し等を行うことが必要である。

## 2.11 愛南町防災教育連携協議会

平成 23 年 7 月 10 日に愛南町御荘文化センター大研修室で、平成 23 年度愛南町防災教育連携協力協議会と愛南町防災教育推進懇談会の合同会議が開催された。この協議会ならびに懇談会は平成 21 年 3 月 7 日に、愛南町の防災教育の推進を目的にして愛南町、愛南町教育委員会、愛媛大学防災情報研究センター、そして国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所の 4 機関で調印され、設立されたものです。今回本センターからは、矢田部センター長、高橋副センター長、板屋副センター長、松本准教授が出席した。

会議では、平成 22 年度の事業報告と平成 23 年度の事業計画が検討され、承認されました。また、東日本大震災調査報告および支援活動報告と題して、愛媛大学防災情報研究センター(矢田部センター長)ならびに大洲河川国道事務所から話題提供がなされた。

愛南町は愛媛県南予に位置し、宇和海に面してリアス式海岸が広がっている。本地域は、過去の東南海・南海地震などにより甚大な被害を被ってきている。また、来る東南海・南海地震に際して、愛媛県下でもっとも津波災害が危惧される地域である。そのため、町をあげて学校防災教育に取り組んでおり、着実に成果をあげているところである。

## 2.12 西日本高速道路（株）四国支社との平成 23 年度連携推進会議

日 時：平成 24 年 3 月 2 日（金）15：30～17：30

場 所：愛媛大学 愛大ミュージズ 3 階 ミーティングルーム

参加者：委員（愛媛大学 2 名 西日本高速道路（株）4 名）

陪席（愛媛大学 4 名 西日本高速道路（株）4 名）

### 1. 研究連携課題の状況報告について

空気注入工法の研究成果についておよび暫定 2 車線道路区間における交通事故発生リスクに関する研究について報告があった。

### 2. NEXCO 側、愛媛大学側から下記についてそれぞれ話題提供を実施した。

#### (1) 西日本高速道路株式会社四国支社

- ・台風 12、15 号等による災害報告
- ・大地震による NEXCO 西日本管内の道路網被害想定に関する検討

#### (2) 愛媛大学

- ・画像解析を援用したアスファルト舗装のひび割れの定量的評価と、劣化予測手法（全助教）

## 2.13 その他の講演会等

### 2.13.1 防災情報研究センター特別講演会

本学理工学研究科の安原英明准教授は、熱・水・応力・化学連成を考慮した 数値解析シミュレータの構築に取り組んでいる。この成果は、高レベル放射 性廃棄物の地層処分場の長期安定管理を始めとして、二酸化炭素の岩盤内貯蔵 や、地熱発電所における効率的エネルギー回収など、人類が直面している放射 性廃棄物の問題やエネルギー問題、地球温暖化ガス問題などに幅広く適用が想定されている。今回、安原准教授が平成 23 年度文部科学賞大臣表彰若手科学者賞を受賞されることを記念して、下記の要領で講演会を開催した。

日 時：平成 23 年 5 月 10 日(火) 12 時 50 分～14 時 20 分

場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター メディアホール

主 催：愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学環境建設工学コース  
愛媛大学防災情報研究センター

参加者：150 名

演 題：

「熱・水・応力・化学連成場における岩盤の透水物質輸送機構の研究」

愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 安原 英明

### 2.13.2 企画展「震災を知る－愛媛の災害史と東日本大震災－」

防災センターが現在行っている東日本大震災の被害調査や、愛媛で起こった過去の災害を踏まえた防災対策研究など、防災に関する社会貢献活動を来館者に提供することを目的とし、災害の事例を当時の記録や調査記録から学ぶため、愛媛で起こった災害から東日本大震災までの新聞報道資料や防災情報研究センター職員による東日本大震災の調査記録を展示した。

日 時：平成 23 年 6 月 1 日(水)～平成 23 年 7 月 31 日(日)

(毎週火曜日は休館)

場 所：愛媛大学ミュージアム多目的ルーム

主 催：社会連携推進機構防災情報研究センター、  
愛媛大学ミュージアム

後 援：愛媛新聞社





### 2.13.3 今治市立城東小学校防災学習会

平成 23 年 7 月 8 日（金）に今治市立城東小学校で防災学習会を開催した。同小は海岸から 300m と近い上に、蒼社川沿いにも位置している。そのため、津波災害や洪水災害の発生が危惧されている。また、今治市における東南海・南海地震による津波高さは最大で 2m 程度と予想されていたが、3 連動型地震が発生すればもっと高い津波の襲来も考えられ、甚大な被害の発生が予想される。東日本大震災の発生を受けて学校における防災教育の必要性が高まってきた。今回、同小では、全校児童を対象に避難訓練、防災学習会（クイズ形式）、津波記録 DVD の視聴を通して自然災害、特に津波災害への対応について学ぶ機会となった。

### 2.13.4 愛媛大学社会連携推進機構研究協力会総会特別講演会

平成 23 年 7 月 15 日に標記の平成 23 年度総会開催に合わせて、東日本大震災に関わる特別講演会を愛媛大学南加記念ホールにて実施した。講演会では矢田部センター長が東日本大震災の概要を、木下教授と森准教授が現地調査結果の報告を行った。約 90 名の参加者は甚大な津波被害に自然の破壊力の凄まじさを再認識させられるとともに、来る東南海・南海地震への備えの必要性に思いを強くする機会となった。

日 時：平成23年7月15日（金） 午後4時30分～

場 所：愛媛大学南加記念ホール

プログラム：

東日本大震災の概要

防災情報研究センター長 矢田部 龍一

東日本大震災現地調査報告

防災情報研究センター 木下 誠也

防災情報研究センター 森 伸一郎

## 2.13.5 蔚山大学土木環境学部と建設環境問題に関するジョイントセミナー

愛媛大学防災情報研究センターと国際連携推進機構は、蔚山大学建設環境学部と共催して、平成23年9月16日に韓国の蔚山大学国際会議室において、標記のジョイントセミナーを開催した。セミナーには愛媛大学側からの18名を含めて150名が参加し、11編の発表と熱心な討議が行われた。セミナー終了後には発表した学生や教員を中心に夜遅くまで懇親を深めた。今後も毎年、学生セミナーを開催する予定である。

蔚山大学は釜山広域市から70kmの日本海に面した人口109万人の蔚山広域市にある学生数12,000名の私立大学である。愛媛大学は蔚山大学と昨年の7月に学术交流協定を締結し、活発な学术交流を展開している。今も工学部環境建設工学科の学生3名が4ヶ月の予定で留学生活を送っている。なお、蔚山広域市には世界的企業である現代自動車や現代重工業が立地している。

## 2.13.6 行政相談委員自主企画会議

愛媛行政相談委員協議会との共催で、平成23年9月29日（木）道後にぎたつ会館にて行政相談委員自主企画会議が開催された。まず初めに愛媛行政相談委員協議会長 池田英雄氏から挨拶があり、続いて、高橋副センター長が「南海地震における過去の被害状況及び今後 の対応策」と題した講演を行った。本講演は、愛媛県下の行政相談委員の研修会で行われたもので、過去の地震発生メカニズムについて知り、南海地震に備えた防災教育、啓蒙活動、耐震補強及び防災訓練の必要性について実感した研修となった。

## 2.13.7 国際フォーラム「ネパールの開発と観光年2011の推進をめざして」

平成23年10月11日（火）愛媛大学南加記念ホールにおいて200名を超える方に参加頂いて、国際フォーラム「ネパールの開発と観光年2011の推進をめざして」を開催した。フォーラムはネパール元首相 Madhav Kumar Nepal 氏の基調講演に続いて、ネパール前文部大臣 Gangalal Tuladhar 氏、駐日ネパール大使館公使ドゥルガ・スベディ氏、愛媛大学矢田部龍一理事・副学長ならびに愛媛大学理工学研究科バンダリ・ネトラ・プラカシュ助教が話題提供した。ネパールの新国家建設に向けた政治的取り組みの現状と課題、教育面での取り組み、ネパール観光等について熱心な討議がなされた。今回のフォーラムは愛媛大学国際連携推進機構が主催したが、防災情報研究センターが中心になってネパールでの長年

にわたる防災研究の成果が認められて実現したものである。懇親会には100名の参加者があり、元首相等を囲んでネパールと日本の友好の輪が、より強く、より大きく広がった。

### 2.13.8 防災講演会



平成23年10月28日(金)の14時00分～16時00分に、松山国際ホテル3F常盤において約150名の方に参加いただき、コープえひめ「虹の会」と共催で防災講演会を実施しました。コープえひめ「虹の会」秋の会員学習会において、森伸一郎准教授の講演が「南海地震とリスク管理」と題して行われた。講演では、想定される愛媛県の南海地震について説明し、地震被害の基本要因を理解して戴いた上で、実際の災害では様々な事象が連関するので、自分の置か

れた環境で災害の進展をイメージすることが重要であることを聴講者が参加して学ぶ機会となった。さらに、来場者のリスク意識調査、バイアスチェックをその場で行いながら、災害に対する感情的判断(ヒューリスティック)が知らず知らずに災害リスクを高めてしまうことについてなど話があった。災害に対するリスクマネジメントの必要性を再認識させられる講演となった。

### 2.13.9 防災講演会

平成23年11月2日(水)の14時00分～16時30分に、愛媛県勤労会館6Fにおいて約150名の方に参加いただき、社団法人愛媛県労働者福祉協議会と共催で防災講演会を実施した。まず初めに、東日本大震災の犠牲者への黙祷が捧げられ、続いて、愛媛県労働者福祉協議会理事長 木原忠幸氏から挨拶があり、その後、高橋副センター長、矢田部センター長の講演が行われた。「南海地震への備えと地域防災活動について」と題して高橋副センター長から、自分たちの住んでいるところをよく知ることが身を守る手段となり、更に、地震の起こるメカニズムを知り、来る南海地震に備えるために「防災力=自治力=地域力」を見直し、コミュニティの再構築



高橋先生の講演

をすること、そして防災教育や啓蒙活動、耐震補強、防災訓練が必要となること等について講演があり、また、「東日本大震災の報告」と題して矢田部センター長から震災の報告及び震災後の日本のあり方に

ついて講演が行われた。震災からの教訓や災害に対する備えの必要性を再認識させられる講演会となった。

### 2.13.10 高齢者学級防災講義

平成23年11月17日(木)の13時20分～15時50分に、伊方町三崎保健福祉センターにおいて約80名の方に参加いただき、伊方町老人クラブ連合会三崎支部と共催で高齢者学級防災講義を実施した。伊方町老人クラブ連合会三崎支部長小林文夫氏の挨拶に続いて、八幡浜地区施設事務組合消防本部警防課長補佐上田忠氏による「奄美大島豪雨災害について」講義があった後、高橋副センター長から「大地震発生、その時私たちは・・・」と題して講義が行われた。講演で、高橋副センター長は、各人が地域の人たちの特技・取り柄を評価し、活かして助け合える安心、安全な住みよい町づくりをすることが「災害への備え」になることについて話し、参加者たちも、災害をただ恐れるのではなく、お互いが理解し、助け合えるコミュニティーの構築や防災訓練、避難訓練などの日頃の準備の大切さを実感する機会となった。

### 2.13.11 平成23年度消防団正副団長等研修会

財団法人愛媛県消防協会と共催で、平成23年12月4日(日)に国際ホテルを会場に、約100名の消防団長や副団長に参加いただき、防災研修会を実施した。研修会では、財団法人愛媛県消防協会会長の山本忠氏の開会挨拶に続いて、矢田部センター長が「消防団員と自主防災の関わり方」と題して講演した。消防団は全国に90万人、愛媛県下に2万人の団員を擁する大きな組織である。消防団の団長や副団長の公的意識はやはり極めて高いものがある。また、消防団は防災の最前線に立っておられる。東日本大震災の発生に際しても尊い犠牲を払いながら、多大な貢献をされている。

日時：平成23年12月4日(日) 14:10～15:50

場所：松山国際ホテル南館 鳳凰の間

共催：愛媛大学防災情報研究センター・愛媛県消防協会

参加者：100名

プログラム：

「消防団員と自主防災の関わり方

—現状と今後の課題—

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部龍一



### 2.13.12 肱川流域学講座 だんだん肱川「今だから考えよう 肱川流域での防災」

肱川流域会議水中めがね主催、防災情報研究センター共催で肱川流域学講座「今だから考えよう 肱



川流域での防災」を12月10日に大洲市総合福祉センターで開催した。参加者は肱川流域の10校全ての高校から参加していただいた計40名の高校生と愛媛大学留学生34名を含めて500名弱にのぼった。板屋副センター長の基調講演に続き、留学生3名がアジア各国の防災について発表し、最後に高校生による「防災・減災を考える」をテーマにパネルディスカッションが行われた。高校生は3班に分かれて「知る」、「逃げる」、「助ける」のそれぞれのテーマについて討論を行い、各班のまとめを発表し、アドバイザーの四国地方整備局の森吉尚河川部長、矢田部センター長からコメントをいただいた。高校生と留学生が主体となって防災を考える、とても実りの多いプログラムとなった。

日 時：平成23年12月10日(土) 13:00～16:00

場 所：大洲市総合福祉センター（大洲市東大洲）

主 催：肱川流域会議水中めがね

共 催：愛媛大学防災情報研究センター

後 援：大洲市、伊予市、西予市、砥部町、内子町

プログラム：

基調講演 「全国各地で頻発する自然災害 その現状と課題」

防災情報研究センター副センター長 板屋 英治

「アジア各国の防災・減災」

愛媛大学 留学生

高校生による「防災・減災を考える」

肱川流域の参加高校生

## 2.13.13 こども防災教室

平成24年1月14日(土)の10時00分～16時00分に、DAIKI ゆめ・みらい住まいの創造かん「ぼうさい耐震ひろば」において約50名の方に参加いただき、防災教室を実施した。松本准教授から「防災のおはなし」と題して、こども防災教室を開催した。講演では、参加者を交えて、耐震の仕組みを家の骨組み模型を使って体験してもらったり、家庭にいる時、地震が起こったらどのような行動をとらなければいけないのかを分かりやすく説明した。防災教室をとおして、参加者たちは、地震が起こった時、まず自分自身を守らなければならないこと、また、被災した時に助けをもらうため日頃から家族や友だちを大切にすることを学んでいた。



## 2.13.14 国際講演会開催

愛媛大学防災情報研究センターでは、南アジア地域協力連合（SAARC）の地域センターの一つであるSDMC（災害管理防災センター）のMishraセンター長による国際講演会を、平成24年1月21日（土）に、愛媛大学ミュージズの会議室で開催した。Mishraセンター長は、インド、ネパール、インドネシア、中国からの留学生など、20数名の参加者を前に「南アジアの防災に関わるSDMCの取り組み」と題して、南アジアにおける防災の重要性を熱く講演し、また参加者と熱心に討議された。南アジア各国は、政治的に、宗教的に、また民族的に難しい問題を抱えている。そのため、災害発生時にも迅速な救援活動が出来ないような状況であったが、SDMCの活動で国境の壁が徐々に低くなりつつあるということであった。防災情報研究センターでは、今後、SDMCと連携して、南アジア地域の防災調査・研究を加速する予定である。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：愛媛大学国際連携推進機構

日 時：平成24年1月21日（土） 13:30-15:00

会 場：愛媛大学ミュージズ2階（学習支援室1）

参加者：25名

プログラム：

南アジアの防災に関わるSDMCの取り組み      SDMCセンター長 Dr. Mishra Om Prakash

## 2.13.15 平成23年度愛媛県津波避難訓練

平成24年1月22日の午前9時から愛南町久良地区で津波避難訓練が開催された。愛媛県防災会議と愛南町、宇和島市、八幡浜市、西予市の各市町の防災会議、ならびに愛媛大学防災情報研究センターの主催によるものである。内容は、愛媛県と宇和海沿岸5市町による情報伝達訓練、久良小学校を主会場とした久良地区の住民避難訓練、愛媛大学防災情報研究センターによる防災講演会、それと地震体験者による地震体験、煙体験などである。久良地区はリアス式海岸に立地する高齢化が進んだ人口500名足らずの集落である。東南海・南海地震により甚大な被害の発生が想定されており、そのため防災活動へも熱心な取り組みがなされている。避難訓練には200名を超える方が参加した。避難訓練は、一時避難場所への避難訓練、一時避難場所での住民安否確認訓練、一時避難場所からさらに高いところに避難する二段階避難訓練などである。訓練終了後に中村県知事は、今回の津波避難訓練は成功であり、この動きが県下に広がりを見せて欲しいと講評された。また、最後に矢田部防災情報研究センター長が、久良地区の200名を超える参加者を前に「津波災害と避難」と題する防災講演を行った。

## 2.13.16 日本再構築 社会資本整備の新たな道筋講演会

平成 24 年 2 月 14 日（火）に愛媛大学南加記念ホールで講演会を開催した。約 150 名の参加者が、川崎四国地方整備局長，井上愛媛県土木部長，福田四国建設弘済会理事長，木下愛媛大学教授，各々の講演に熱心に耳を傾けていた。四国の土木界を代表する講師陣は，東日本大震災の発生を受けて，災害に強い国土づくりや自立する地域づくりに関して熱く語られた。

日 時：平成 24 年 2 月 14 日（火） 13：30～17：00

場 所：愛媛大学南加記念ホール

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

参加者：150 名

プログラム：

開会挨拶 防災情報研究センター長 矢田部 龍一

社会資本整備の現状と今後の展開

四国の地域づくり「自立する四国」の持続的発展に向けて

国土交通省四国地方整備局長 川崎 正彦 氏

愛媛県の取り組み

愛媛県土木部長 井上 要 氏

公共事業調達の改革に向けて

愛媛大学防災情報研究センター教授 木下 誠也

社会資本整備の将来展望

（社）四国建設弘済会理事長 福田 昌史 氏

質疑応答

閉会



木下先生の講演



会場の様子

## 2.13.17 内子町教育研究所研究大会

内子町教育研究所に協力し、平成24年2月21日(火)に内子町共生館を会場に、約230名の内子町内の教職員の方々に参加いただき、研究会を実施した。教育上の諸問題について、教育研究並びに教職員の研修等を行い、教育の充実や進展のため開催しているこの研究会にて、今回は、森准教授が「学校教育における防災教育」と題して講演した。学校教育における防災教育をどのように取り入れるのか、また、どのような配慮が必要なのか等について話し、参加者たちは真剣に耳を傾けていた。



森先生の講演

## 2.13.18 社会福祉施設防災研修会

愛媛県中予地方局主催・愛媛大学防災情報研究センター後援で、平成24年2月27日(月)愛媛県中予地方局(大会議室)を会場に、中予管内の社会福祉施設職員約200名が参加して「社会福祉施設防災研修会」を開催しました。研修会は、第1部の基調講演「社会福祉施設の防災対策について」と第2部の内容説明「社会福祉施設防災マニュアル」の2部構成で、基調講演の講師を板屋英治副センター長が務めました。第1部の基調講演は、東日本大震災の被災状況や防府市の土石流災害等を事例にして、自然災害の脅威と防止対策の必要性を訴えるもので、写真や地図、グラフ等を活用した臨場感に溢れる板屋副センター長の話に、参加者たちは何度も頷きながら熱心に耳を傾けていた。第2部で説明した「社会福祉施設防災マニュアル」は、板屋副センター長の協力のもとに愛媛県中予地方局が策定した冊子で、過去の災害の教訓を織り込んで社会福祉施設(高齢者関連施設・障害福祉施設・児童福祉施設)における平常時の対策や災害発生時の対応等を取りまとめたものである。

## 2.13.19 河川文化を語る会「アジア太平洋地域の災害を語る」

防災情報研究センターは、日本河川協会と両主催で、3月9日に愛媛大学南加記念ホールにて標記のセミナーを開催した。約150名の参加者が熱心に講演に耳を傾け、活発に会場と意見交換が行われた。昨年の紀伊半島を襲った記録的な集中豪雨やタイの大規模な洪水災害では多くの工場が被災し、莫大な被害が出たのは記憶に新しいところであるが、近年の気候変動に起因すると思われる自然災害により、規模や被害金額など、今まで経験したことのない状況が多発している。各講師からの貴重なご講演を通じ、アジア太平洋地域の災害を教訓に自然災害に見舞われやすい日本においても、大規模地震への備えとともに大規模自然災害への備えが必要であることを再認識させられるとともに、アジア太平洋地域への防災技術協力の必要性を認識させられる機会となった。

日 時：平成24年3月9日（金）13：30～

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：150名

主 催：愛媛大学 防災情報研究センター・公益社団法人 日本河川協会

共 催：（社）四国建設弘済会，（財）河川情報センター，えひめ川の会

後 援：国土交通省四国地方整備局，徳島県，香川県，愛媛県，高知県，  
（社）建設コンサルタンツ協会 四国支部

プログラム：

開会挨拶  
愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一  
公益社団法人日本河川協会 専務理事 望月 常好 氏

オーストラリアの災害報告

国土技術政策総合研究所河川研究部水資源研究室主任研究官 板垣 修 氏  
ベトナムに適用可能な日本の水管理技術について－2010年ベトナム中部頻発洪水－  
社団法人土木学会ベトナム中部頻発洪水調査団団長 鳥居 謙一  
（当時 愛媛大学 防災情報研究センター 教授）

ネパールの自然災害と防災教育の展開 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一  
世界の大規模洪水を監視・予測する先端技術－2011年タイ洪水を事例に－

独立行政法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター研究員 佐山 敬洋 氏  
会場との意見交換

コーディネーター 愛媛大学防災情報研究センター副センター長 板屋 英治

## 2.13.20 愛媛糖尿病チーム医療研修会



平成 24 年 3 月 10 日(土)、愛媛県看護協会大研修室において愛媛糖尿病チーム医療研修会を愛媛糖尿病チーム医療研修会、バイエル薬品株式会社と共催で愛媛糖尿病チーム医療研修会を実施した。愛媛県内の医師、糖尿病療養指導士、看護師など 257 名が参加する愛媛糖尿病チーム医療研修会において、

矢田部センター長から「東日本大震災の教訓と東南海・南海地震への備え」と題して講演があった。続いて、「東日本大震災における当院での糖尿病患者への対応」と題して、石巻赤十字病院 杉村第 5 内科部長から講演があった。参加者たちは、それぞれの講演に熱心に耳を傾け、有意義な研修の場となった。

## 2.13.21 愛媛県津波防災セミナー

愛媛県が主催し、防災情報研究センターなどが共催した標記のセミナーが、平成 24 年 3 月 11 日(日)に宇和島市立南予文化会館大ホールで開催された。700 名を超える参加者を前に、人と防災未来センターの奥村主任研究員が「東日本大震災 これからの津波防災を考える」と題する特別講演を、愛媛大学防災情報研究センターが津波避難に関する実地検証結果の報告を、愛媛県県民環境部が津波災害対策検討会の報告を行った。近い将来に発生が予想される東南海・南海地震による巨大津波に対しての備えの必要性を、参加者一人一人が再認識させられるセミナーとなった。

## 2.14 防災情報研究センターニュース

本年度は、80件のメルマガ配信を行いました。3月末時点の登録者数は、940名です。  
 メールマガジン配信希望の方は、センターHPからお申し込みください。また、バックナンバーも  
 センターHPで公開しています。  
 防災情報研究センター ホームページ <http://cdmir.jp/>

発行日	号	タイトル
2011. 4. 05	160	<案内>①愛媛県建設業審査会が開催されました ②東北地方太平洋沖地震に関する現地調査について
2011. 4. 06	161	<案内>「東北地方太平洋沖地震現地調査報告会」を開催します
2011. 4. 07	162	<案内>「東北地方太平洋沖地震災害調査報告会」の開催
2011. 4. 08	163	<報告>松前町で「防災キャラバン-災害に強い地域づくり-」を実施しました <案内>「愛媛大学『研究室からこんにちは!』」に矢田部先生が出演します
2011. 4. 18	164	<案内>緊急防災キャラバン(防災センター・愛南町連携防災講演会)を開催します
2011. 4. 19	165	<報告>東北地方太平洋沖地震現地調査報告会を開催しました
2011. 4. 21	166	<案内>防災情報研究センター特別講演会開催のご案内
2011. 4. 22	167	<案内>【情報提供】3月11日の東日本大震災での津波を特集した番組が放送されます
2011. 5. 02	168	<報告>緊急防災キャラバン(防災センター・愛南町連携防災講演会)を開催しました
2011. 5. 09	169	<案内>平成22年度防災情報研究センター活動報告会を開催します
2011. 5. 20	170	<案内>「四国おはようネットワーク」電話インタビュー出演について
2011. 6. 03	171	<案内>第3回東日本大震災調査等報告会を開催します
2011. 6. 07	172	<案内>企画展「震災を知る-愛媛の災害史と東日本大震災-」開催中
2011. 6. 16	173	<報告>防災情報研究センター平成22年度活動報告会を開催しました
2011. 6. 20	174	<案内>第36回海洋開発シンポジウムが開催されます
2011. 6. 28	175	<案内>防災キャラバン-防災センター・東温市連携防災講演会-の開催について
2011. 7. 01	176	<案内>防災情報研究センター 7月1日からの新体制のお知らせ
2011. 7. 05	177	<挨拶>新任挨拶(防災情報研究センター副センター長 板屋英治)
2011. 7. 08	178	<報告>東温市で「防災キャラバン-東南海・南海地震に備えて-」を開催しました
2011. 7. 11	179	<報告>今治市立城東小学校で防災学習会を実施しました
2011. 7. 13	180	<報告>愛南町で防災教育関連会議と講演会を開催しました
2011. 7. 22	181	<報告>愛媛大学社会連携推進機構研究協力会総会において特別講演会を開催
2011. 8. 01	182	<案内>えひめ防災フォーラム2011開催のご案内
2011. 8. 08	183	<案内>愛媛県地盤工学研究会 第1回特別講演会開催のご案内
2011. 8. 10	184	<案内>ホームページリニューアルと新規メルマガ会員登録方法のお知らせ
2011. 8. 18	185	<案内>第5期えひめ建設BCP研究会参加企業募集のお知らせ
2011. 8. 22	186	<案内>愛媛県地盤工学研究会 第1回特別講演会開催のご案内
2011. 8. 26	187	<案内>防災講演会「津波防災を考える in 真穴」の開催について
2011. 8. 29	188	<報告>えひめ防災フォーラム2011を開催しました
2011. 9. 02	189	<報告>学校防災教育を積極的に展開しています
2011. 9. 05	190	<案内>平成23年台風12号災害調査団の派遣について(参加者募集)
2011. 9. 06	191	<報告>防災講演会「津波防災を考える in 真穴」を開催しました
2011. 9. 13	192	<案内>①台風12号災害現地調査報告会を開催します ②えひめ防災フォーラム2011の講演録をHPで公開しています
2011. 9. 14	193	<案内>国際フォーラム「ネパールの開発と観光年2011の推進をめざして」の開催
2011. 9. 15	194	<案内>「えひめ建設BCP研究会(継続更新)」参加企業の募集について
2011. 9. 28	195	<報告>①蔚山大学土木環境学部と建設環境問題に関するジョイントセミナーを開催 ②四川大地震復興調査ならびに道路建設に関するジョイントセミナーを実施
2011. 10. 04	196	<報告>記録的豪雨をもたらした平成23年台風12号災害の調査速報会を開催しました
2011. 10. 05	197	<案内>愛媛大学GIS研究会開催のご案内
2011. 10. 06	198	<報告>①新居浜市にて「防災キャラバン-東南海・南海地震に備えて」開催 ②道後にぎたつ会館にて「行政相談委員自主企画会議」開催

2011. 10. 07	199	<案内>防災情報研究センター災害報告会「平成23年台風15号災害の状況」開催
2011. 10. 13	200	<案内>重信川の自然をはぐくむ会の活動紹介について
2011. 10. 17	201	<報告>国際フォーラム「ネパールの開発と観光年2011の推進をめざして」を開催
2011. 10. 18	202	<報告>留学生とエコリーダーが重信川クリーン大作戦に参加しました
2011. 10. 19	203	<案内>「GIS Day in 四国 2011」開催のご案内
2011. 10. 21	204	<案内>ネパール国トリブバン大学講師のRanjan Kumar Dahal氏が防災情報研究センター客員准教授として、ネパール政府前文部大臣Gangalal Tuladharさんが客員研究員として滞在しています
2011. 10. 21	205	<案内>「愛媛大学防災情報研究センター・西予市連携防災講演会 ー防災キャラバン・津波防災を考えるin西予市ー」開催について
2011. 10. 24	206	<案内>「平成23年度 砂防地すべり技術研究成果報告会」開催のお知らせ
2011. 10. 24	207	<報告>ホンジュラスの豪雨災害について
2011. 11. 02	208	<報告>コープえひめ「虹の会」と共催で「防災講演会」開催
2011. 11. 08	209	<案内>「防災キャラバン-東南海・南海地震に備えて」開催について
2011. 11. 09	210	<報告>愛媛県労働者福祉協議会と共催で「防災講演会」開催
2011. 11. 09	211	<報告>社団法人大分県法面協会と共催で「技術講演会」開催
2011. 11. 11	212	<報告>西予市にて「愛媛大学防災情報研究センター・西予市連携防災講演会」開催
2011. 11. 18	213	<案内>「100万人の防災シンポジウム」開催について
2011. 11. 18	214	<報告>四国中央市立土居小学校と共催で総合防災訓練を実施しました
2011. 11. 21	215	<報告>伊方町老人クラブ連合会三崎支部と共催で「高齢者学級防災講義」開催
2011. 11. 30	216	<報告>SAARC（南アジア地域協力連合）の Disaster Management Centerと南アジアの防災研究連携について会議を開催しました
2011. 12. 02	217	<案内>肱川上下流交流「だんだん肱川」開催
2011. 12. 05	218	<報告>①愛媛大の学長候補に現職の柳澤康信氏が決まる ②報告台湾八八水害調査のその後
2011. 12. 12	219	<報告>肱川流域学講座「今だから考えよう 肱川流域での防災」を開催しました
2011. 12. 13	220	<案内>東北地方太平洋沖地震災害調査・四川大地震調査報告会を開催します
2011. 12. 13	221	<報告>財団法人愛媛県消防協会と共催で「平成23年度消防団正副団長等研修会」開催
2011. 12. 14	222	<報告>伊予市にて「防災キャラバン」開催
2011. 12. 28	223	<案内>タイの洪水に関する現地調査報告会の開催
2012. 1. 19	224	<案内>国際講演会「南アジアの防災に関わるSDMCの取り組み」開催案内
2012. 1. 19	225	<報告>「タイの洪水に関する現地調査報告」開催<ご報告>「こども防災教室」開催
2012. 1. 23	226	<報告>①平成23年度愛媛県津波避難訓練開催 ②南アジア地域協力連合災害管理防災センターMishraセンター長による国際講演会開催
2012. 1. 27	227	<案内>「日本再構築 社会資本整備の新たな道筋」開催のご案内
2012. 2. 02	228	<案内>河川文化を語る会「アジア太平洋地域の災害を語る」の開催のご案内
2012. 2. 22	229	<案内>「防災キャラバン-東南海・南海地震に備えて」開催について
2012. 2. 27	230	<案内>愛媛県津波防災セミナーの開催について
2012. 3. 06	231	<報告>内子町教育研究所に協力し「内子町教育研究所研究大会」開催
2012. 3. 12	232	<報告>愛媛県中予地方局に協力して「社会福祉施設防災研修会」開催
2012. 3. 12	233	<報告>愛媛県津波防災セミナーが開催されました
2012. 3. 13	234	<報告>「日本再構築 社会資本整備の新たな道筋」を開催しました
2012. 3. 19	235	<報告>河川文化を語る会「アジア太平洋地域の災害を語る」を開催しました
2012. 3. 19	236	<報告>①愛媛大学南加記念ホールにて「防災キャラバン」開催 ②愛媛県看護協会大研修室にて「愛媛糖尿病チーム医療研修会」開催
2012. 3. 26	237	<報告>愛媛大学の柳澤学長が卒業式式辞で防災への取り組みの重要性を指摘
2012. 3. 27	238	<案内>「えひめ建設BCP研究会」参加企業の募集について
2012. 3. 27	239	<案内>愛媛大学広報誌Line37号を発行しました



### 3. センターが受け入れた研究活動

#### 3.1 受託研究

##### (1) 津波災害対策実地検証

(契約先：愛媛県，研究者：板屋・二神，契約金額：1,293,000 円)

内容：

津波から人的被害の防止・軽減を図るため，現地での実地検証により，現行の避難誘導方法，避難地，避難路の安全性等について確認，検証を行うとともに，住民の意識等を調査し，津波災害対策における課題の抽出や今後の対策の検討を行う。

##### (2) 橋梁長寿命化修繕計画の検証に関する調査研究

(契約先：愛媛県，研究者：森，契約金額：4,594,270 円)

内容：

橋梁の震動を測定し，橋梁の剛性や強度の低下を推定することにより，現在の目視をベースとした橋梁定期点検マニュアルの評価，劣化予測式の妥当性評価，補修工事の効果を定量的に検証し，橋梁長寿命化修繕計画の精度(信頼性)を向上させ，修繕計画が実効性のあるものとする。

##### (3) 平成 23 年度 水域生物を指標とした瀬切れ河川影響評価検討

(契約先：国土交通省四国地方整備局，研究者：矢田部・三宅，契約金額：2,163,000 円)

内容：

瀬切れの期間・区間の拡大が水域に生息する生物にどのような影響をおよぼしているのか調査することを目的としており，瀬切れと河川流量の実態調査及び魚類等の水域に生息する生物の生育・生息・繁殖環境におよぼす影響を河床間隙水域に着目し，瀬切れの期間・区間の拡大が魚類等の水域に生息する生物に重大な影響を与えているかを調査検討するもの。

##### (4) 上流側・下流側それぞれの視点からの総合的な土砂管理方策に関する研究

(契約先：流域水管理研究所，研究者：木下，契約金額：1,000,000 円)

内容：流域における土砂管理については，山地部から，河道，河口・海岸部に至る土砂の連続性を確保し，流砂系一貫として，総合的な視点から検討がなされる必要がある。今後の総合土砂管理の推進等に資することを目的とし，土砂管理の課題解決に向け，上流・下流それぞれの視点から必要な土砂通過の検討を行い，さらに必要な土砂を通過させるための対策の適用性など新しい土砂管理方策についての研究を行う。

##### (5) 平成 23 年度肱川河川管理方策検討業務

(契約先：国土交通省大洲河川国道事務所，研究者：門田，江崎，山岸，板屋，  
契約金額：5,985,000 円)

内容：今後の河川管理の高度化に資するために、肱川の治水の歴史に深く関わってきたナゲと呼ばれる水制や河畔林などの管理方策の検討を行う。

(6) 葉佐池古墳安定性調査業務委託

(契約先：松山市，研究者：矢田部，契約金額：482,000円)

内容：松山市北梅本町に所在する国指定史跡葉佐池古墳において，墳丘の地盤強度等を把握し墳丘斜面の防災対策及び遺構保護措置の検討を行う。

(7) 史跡永納山城跡石材調査研究

(契約先：西条市，研究者：榊原，契約金額：780,000円)

内容：調査予定地の永納山城跡では列石・石積みによる城壁部分が残存しているが，その石材の材質・産地は不明である。そこで，列石・石積みの石材産地を特定するため，現地調査・試料採取・諸試験を行う。

### 3.2 共同研究

(1) 四国地域に分布する火山灰の研究

(契約先：(株)四国総合研究所，研究者：榊原，契約金額：1,100,000円)

内容：四国地域に分布する九州起源の火山灰について，地質学的，および岩石学的研究を実施し，火山灰の性状，分布，および厚さについて検討する。

(2) 変位抑制効果の確認

(契約先：東亜建設工業(株)，不動テトラ(株)，オリエンタル白石(株)，  
ダイアコンサルタント(株)，研究者：岡村，契約金額：4,500,000円)

内容：地盤の不飽和化液状化対策工法による，地震時の地盤変位抑制効果の発現メカニズムと定量的な効果を明らかにするために調査・試験を行う。

### 3.3 研究助成金

(1) 海外比較による建設コンサルタント業務の調達方式のあり方に関する研究

(契約先：(財)国土技術研究センター，助成金額：2,000,000円)

(2) 防災事業による住民の「被災可能性に対する不安」軽減効果の評価

(契約先：(財)国土技術研究センター，助成金額：2,000,000円)

(3) 留学生と地域住民の連携による河川環境と水源林の保全活動を通じた

国際交流推進と地域力再生

(契約先：(財)河川環境管理財団，助成金額：1,900,000円)

- (4) 肱川と重信川を舞台とした国際色豊かな地域一体型河川環境保全プロジェクト  
(契約先：(財)河川環境管理財団，助成金額：1,700,000円)
- (5) 水害避難シナリオ・シミュレータの開発の適用に関する研究  
(契約先：(財)河川情報センター，助成金額：2,500,000円)
- (6) 寄附研究部門「東南海・南海地震研究部門」  
(契約先：(社)四国建設弘済会，寄附総額：90,000,000円)  
設置期間：平成22年10月1日～平成25年3月31日

### 3.4 寄附金

- (株)アースコンサルタント，(株)荒谷建設コンサルタント，(株)エイト日本技術開発，  
(株)愛媛建設コンサルタント，えひめ建設BCP研究会，日本基礎技術(株)，  
(社)日本鉄鋼連盟，日本プロテクト(株)，(株)芙蓉コンサルタント，匿名希望者

#### 4. センター教員による研究・地域貢献活動

矢田部 龍一

社会貢献活動：

1. 2011. 5. 13：東日本大震災に学ぶ日本の防災：JA 愛媛青壮年連盟講演会：松山市：JJA 愛媛ゴールドホール：200 名
2. 2011. 6. 13：東日本大震災に学ぶ日本と愛媛の防災：愛媛県議会：松山市：県議会農林建設委員会室：50 名
3. 2011. 6. 16：国際化と人材育成：愛媛県海外協会総会特別講演：松山市：東京第一ホテル：100 名
4. 2011. 6. 17：日本を取り巻く現状と課題ー東日本大震災の発生を受けてー：NPO 日本環境土木工業会総会：東京都：ホテル・メトロポリタンエドモント：100 名
5. 2011. 6. 19：防災研修：今治市立城東小学校：今治市：城東小学校体育館：200 名
6. 2011. 7. 1：東日本大震災の被災概要と来る東南海南海地震への対応：地盤工学会四国支部：高知市：高知市文化プラザかるぽーと：200 名
7. 2011. 7. 24：Ehime University Efforts for International Partnership：Programs and Plans, SUIJI Seminar 2011 in Ehime, Matsuyama, Ehime University N a n k a K i n e n H a l l , 200
8. 2011. 7. 31：東日本大震災の被災概要と来る東南海南海地震への対応：地域で育む防災意識～大地震に備えて～：松山赤十字病院：松山市：ひめ銀ホールサブホール：700 名
9. 2011. 8. 19：東日本大震災等の巨大災害と求められる防災教育：近見中学校区教育会夏季研修会：近見中学校区教育会：今治市：今治市近見公民館：120 名
10. 2011. 8. 26：東日本大震災の概要と来る東南海・南海地震の被害想定：2011 年度近畿・中国・四国ブロック県青年漁業者連絡協議会会議：愛媛県青年漁業者連絡協議会：松山市：愛媛県水産会館：70 名
11. 2011. 8. 27：東日本大震災の概要と来る東南海南海地震への対応：四国中央市教諭夏季研修会：四国中央市教育委員会：四国中央市：四国中央市福祉会館：200 名
12. 2011. 9. 9：東日本大震災の概要と来る東南海・南海地震への備えを考える：日本青年会議所愛媛ブロック協議会総会：松山市：道後山の手ホテル：150 名
13. 2011. 9. 22：東日本大震災の被害概要と防災研究：四川省道路調査設計研究院会議室：成都市：四川省道路調査設計研究院：30 名
14. 2011. 10. 3：東日本大震災の概要と来る東南海・南海地震への対応：愛媛新聞愛研会：松山市：松山全日空ホテルガーネットルーム：100 名
15. 2011. 10. 7：東日本大震災の概要と来る東南海・南海地震への対応：第 14 回法面保護に関する技術講演会：社団法人分県法面協会：別府市：別府ビーコンプラザ：300 名
16. 2011. 10. 7：Towards Sustainable Development of Nepal, the Birthplace of Asian Spiritual Culture, International Forum -Promoting Nepal's Development and Tourism Year 2011-, Ehime University N a n k a K i n e n H a l l , 200
17. 2011. 10. 22：南海地震に備えて・防災工学の立場から：国大協シンポジウム・南海震災に備えて・四国 4 県でどう支え合うか：高知大学：南国市：高知大学岡豊キャンパス：150 名

18. 2011. 10. 29 : 東日本大震災の概要と来る東南海・南海地震への対応 : 愛媛大学工業会総会 : 松山市 : 愛媛大学校友会館 : 60 名
19. 2011. 11. 3 : 東日本大震災の概要と来る東南海・南海地震への備え : 愛媛県労働者福祉協議会研修会 : 松山市 : 愛媛県勤労会館 : 200 名
20. 2011. 11. 5 : 気象災害・地震災害 : 防災士養成講座 : 今治市 : 今治市 : 今治市総合福祉センター : 200 名
21. 2011. 11. 5 : 東日本大震災を踏まえて高齢者が地域で働いていけるのか : 松山市シルバー人材センター震災復興シンポジウム : 松山市シルバー人材センター : 松山市 : 松山市総合コミュニティセンター : 500 名
22. 2011. 11. 24 : ネパールの開発と持続的発展をめざして : 愛媛大学 : カトマンズ市 : エベレストホテル : 80 名
23. 2011. 12. 4 : 消防団員と自主防の関わり方 : 愛媛県消防協会講演会 : 松山市 : 松山国際ホテル : 100 名
24. 2011. 12. 4 : だんだん肱川防災フォーラム・アドバイザー : だんだん肱川 : 肱川流域会議 : 大洲市 : 大洲市総合福祉センター : 300 名
25. 2011. 12. 4 : 大学教育における SUIJI 合同学位制度の意味 : 愛媛大学農学部平成 23 年度国際ワークショップ : 愛媛大学農学部 : 松山市 : 愛媛大学農学部会議室 : 30 名
26. 2011. 12. 18 : 東日本大震災の概要と来る東南海・南海地震に備える : 愛媛県栄養士会講演会 : 松山市 : 愛媛大学情報メディアセンター : 50 名
27. 2011. 12. 21 : 東日本大震災の教訓と東南海・南海地震への備え : 愛媛県高等学校教育研究大会 : 松山市 : 松山東高等学校 : 200 名
28. 2012. 1. 5 : 大規模自然災害への戦略的対応を : 災害調査報告会 : 地盤工学四国支部 : 松山市 : 愛媛大学校友会館 : 60 名
29. 2012. 1. 5 : 大規模自然災害への戦略的対応を : 災害調査報告会 : 地盤工学四国支部 : 松山市 : 愛媛大学校友会館 : 60 名
30. 2012. 1. 22 : 津波災害と避難 : 災害調査報告会 : 愛媛県津波避難訓練 : 愛媛県 : 愛南町久良小学校体育館 : 300 名
31. 2012. 1. 22 : 東日本大震災の被災状況と高規格道路の新たな役割 : 地域高規格道路「大洲・八幡浜自動車道」シンポジウム基調講演 : 八幡浜市 : 八幡浜市ハーパープラザホテル : 200 名
32. 2012. 1. 27 : 人生の勝利者とは : 愛媛大学地盤防災研究室調査報告会 : 松山市 : 奥道後ホテル : 50 名
33. 2012. 2. 4 : 子供の命を守る「防災を考える」 : 子育て講演会 : 宇和島市保育協議会 : 宇和島市 : 宇和島市総合福祉センター : 150 名
34. 2012. 2. 11 : 地震の仕組みと被害 : 防災士養成講座 : 松山市 : 松山市保健所・消防合同庁舎 : 150 名
35. 2012. 3. 3 : 地域の安全安心は夫人から、家庭から : 伊予市夫人防災クラブ : 伊予市 : 伊予市市民会館 : 200 名
36. 2012. 3. 9 : ネパールの自然災害と防災教育 : アジア太平洋地域の災害を語る会 : 愛媛大学防災情報研究センター&河川協会 : 松山市 : 愛媛大学南加記念ホール : 200 名
37. 2012. 3. 10 : 東日本大震災の教訓と来る東南海・南海地震への備え : 第 44 回愛媛糖尿病チーム医療研

修会：松山市：愛媛看護研修センター：200名

38. 2012. 3. 11：津波避難調査の：愛媛県津波防災セミナー：愛媛県：宇和島市：南予文化会館：600名
39. 四国災害アーカイブス事業検討委員会 委員 ((社)四国建設弘済会)
40. 土壌汚染対策専門委員 (松山市)
41. 事業評価監視委員会 委員 (四国地方整備局)
42. 津波災害対策検討会 委員 (愛媛県)
43. 第6次松山総合計画策定業務委託事業者選考委員会委員長 (松山市)
44. 工事等成績評定審査委員会 委員長 (四国地方整備局)
45. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会 委員 (愛媛県)
46. 石手川ダム水源地域ビジョン推進委員会 委員長 (松山市)
47. 石手川ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会 会長 (松山市)
48. 松山市下水道事業経営審議会 副会長 (松山市)
49. (財)防災研究協会 非常勤研究員
50. 西日本高速道路(株)四国支社 入札監視委員会 委員
51. 2011. 6. 10：事業企画賞：地盤工学会
52. 2011. 10. 12：Honorary Goodwill Ambassador of Visit Lumbini Year 2012：Minister of Culture, NEPAL

#### 論文・研究発表：

1. Dhakal S., Bhandary N. P., Yatabe R., and Kinoshita N., 2011. Experimental, numerical and analytical modelling of a newly developed rockfall protective cable-net structure, Nat. Hazards Earth Syst. Sci., 11, 3197-3212 (2011), [www.nat-hazards-earth-syst-sci.net/11/3197/2011/](http://www.nat-hazards-earth-syst-sci.net/11/3197/2011/), DOI:10.5194/nhess-11-3197-2011
2. Dahal R.K., Hasegawa S., Yamanaka M., Bhandary N.P., Yatabe R., 2011, Rainfall-induced landslides in the residual soil of andesitic terrain, western Japan, Journal of Nepal Geological Society, 42: 127-142.
3. Dhakal S., Bhandary N. P., Yatabe R., and Kinoshita N., 2012. Numerical and analytical investigation towards performance enhancement of a newly developed rockfall protective cable-net structure, Nat. Hazards Earth Syst. Sci., 12, 1135-1149 (2012), [www.nat-hazards-earth-syst-sci.net/12/1135/2012/](http://www.nat-hazards-earth-syst-sci.net/12/1135/2012/), doi:10.5194/nhess-12-1135-2012
4. Bhat D. R., Bhandary N. P., Yatabe R., Tiwari R. C. 2012. A new concept of residual-state creep test to understand the creeping behavior of clayey soils, Proc. ASCE Geo-Institute Annual Congress 2012, Oakland, California, USA, March 25-29, 2012 (CD-ROM)
5. Bhat D. R., Yatabe R., Bhandary N. P. (2011) Residual-State Creep Test in Modified Torsional Ring Shear Machine: A Method towards Landslide Prediction, the 13th International Summer Symposium, Japan Society of Civil Engineers, Kyoto, 2011.8.26 (Best Presentation Award)
6. Dhakal S., Bhandary N. P., Yatabe Ryuichi (2011) Performance Evaluation of an Energy Dissipator in a Rockfall Protective Cable-Net Structure, the 13th International Summer Symposium, Japan

## 高橋 治郎

### 社会貢献活動：

1. 2011.6.12:「自分たちの住んでいる所はどんな場所なのか？」神拝防災教室 2011 (西条市神拝校区 連合自治会・神拝公民館) 西条市神拝校区連合自治会・神拝公民館 (70名)
2. 2011.6.19:「これまでの地震とこれからの地震」神拝防災教室 2011 (西条市神拝校区連合自治会・神拝公民館) 西条市神拝校区連合自治会・神拝公民館 (70名)
3. 2011.6.22:「自助・共助・公助～地域防災への取り組み～」平成23年度エンパワーメントカレッジ ポレポレ共同参画セミナー 財団法人 えひめ女性財団 (30名)
4. 2011.6.25:「松山平野の活断層」平成23年度第1学期 放送大学公開講演会 放送大学愛媛学習センター (60名)
5. 2011.7.3:「東温市をよぎる活断層, 重信断層と川上断層 防災キャラバン ー東南海・南海地震に備えてー 東日本大災害に学ぶ! (愛媛大学防災情報研究センター・東温市連携防災講演会)」愛媛大学防災情報研究センター・東温市 (470名)
6. 2011.7.20:「地域防災計画の見直しに障害者が参画するために」平成23年度 県身障連 市町団体 代表者会議 財団法人 愛媛県身体障害者団体連合会 (約90名)
7. 2011.7.23:「南海地震への備え」第3回土居高校同窓会・松山支部総会 土居高校同窓会・松山支部 (35名)
8. 2011.7.29:「災害に強い町づくり」松前町民生児童委員協議会 研修会 松前町民生児童委員協議会 (約60名)
9. 2011.8.9:「土砂災害発生のメカニズムと二次災害等の防止」平成23年度 土木施工管理技術講習会 (愛媛県総合科学博物館) 愛媛県土木施工管理技術士会 (200名)
10. 2011.8.11:「土砂災害発生のメカニズムと二次災害等の防止」平成23年度 土木施工管理技術講習会 (愛媛県歴史文化博物館) 愛媛県土木施工管理技術士会 (150名)
11. 2011.8.12:「土砂災害発生のメカニズムと二次災害等の防止」平成23年度 土木施工管理技術講習会 (松山市コミュニティーセンター) 愛媛県土木施工管理技術士会 (230名)
12. 2011.8.21:「防災意識を高めるために」平成23年度県身障連 リーダー養成研修会 財団法人 愛媛県身体障害者団体連合会 (約30名)
13. 2011.9.4:「これからの防災対策について」内子町防災研修会 内子町 (約300名)
14. 2011.9.7:「大地震発生, その時私たちは…」平成23年度第51回愛媛県老人クラブ大会 財団法人 愛媛県老人クラブ連合会 (約1000名)
15. 2011.9.9:「防災のための地域参画 ～自分にできること～」平成23年度地域エンパワーメントカレッジ 財団法人えひめ女性財団 (約40名)
16. 2011.9.24:「今, 自主防災組織に求められていること」平成23年度新居浜市連合自治会役員研修会・防災講演会「防災キャラバン」新居浜市連合自治会 (約400名)
17. 2011.9.29:「南海地震における過去の被害状況及び今後の対応策」行政相談委員自主企画会議 愛媛行政相談委員協議会 (約90名)

18. 2011. 10. 23: 「地名からみる自然環境」平成 23 年度第 2 学期「放送大学公開講演会」放送大学愛媛学習センター (約 30 名)
19. 2011. 10. 30: 「東温市の防災を考える」平成 23 年度第 5 回郷土史講座 東温市教育委員会・東温史談会 (約 60 名)
20. 2011. 11. 2: 「南海地震への備えと地域防災活動について」愛媛労働者福祉研究集会防災講演会 愛媛県労働者福祉協議会・愛媛大学防災情報研究センター (約 150 名)
21. 2011. 11. 17: 「大地震発生, その時私たちは」平成 23 年度高齢者学級 伊方町老人クラブ連合会三崎支部・愛媛大学防災情報研究センター (約 80 名)
22. 2011. 12. 11: 「南海地震発生に伴う伊予市の活断層への影響と津波の到来」防災キャラバン - 東南海・南海地震に備えて- 愛媛大学防災情報研究センター・伊予市連携防災講演会 愛媛大学防災情報研究センター・伊予市 (約 200 名)
23. 2011. 2. 12: 「自然災害を知り, 自然災害から身を守る」放送大学愛媛学習センター「特別講演会」放送大学愛媛学習センター 大洲市立図書館 (約 30 名)
24. 2011. 3. 10: 「プレートテクトニクス」平成 23 年度第 2 学期 放送大学公開講演会 放送大学愛媛学習センター (約 25 名)
25. 放送大学 愛媛学習センター 客員教授 放送大学愛媛学習センター
26. 国道 33 号三坂地区事前通行規制区間検討委員会委員 (国内 国土交通省)
27. 総合科学博物館自然系展示整備業務委託候補者選定委員会委員 (国内 愛媛県)
28. 愛媛県環境審議会 化学物質環境保全部会委員 (国内 愛媛県)
29. 「防災マップ作成業務委託」に関わる業者選考委員会副委員長 (国内 松山市)
30. 防災マップワーキング副委員長 (国内 松山市)
31. 土砂災害危険箇所避難誘導支援協働モデル事業委員 (国内 愛媛県)
32. 愛南町防災教育推進懇談会委員 (国内 愛媛県愛南町)
33. 愛南町防災教育連携協力協議会委員 (国内 愛媛県愛南町)
34. (重信川)河ロワーキング部会委員 (国内 国土交通省四国地方整備局)
35. 重信川流域学識者会議委員 (国内 国土交通省)
36. 地下水資源調査研究委員会委員 (国内 愛媛県西条市)
37. 愛媛県総合科学博物館協議会委員 (国内 愛媛県)
38. 愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会副委員長 (国内 愛媛県)
39. 重信川の自然をはぐくむ会委員 (国内 国土交通省四国地方整備局)
40. 愛媛県環境審議会 温泉部会 部会長 (国内 愛媛県)
41. 愛媛県環境審議会委員 (国内)

論文・研究発表：

1. 高橋治郎, 2011 年ニュージーランド地震と東北地方太平洋沖地震の覚え書き, 愛媛の地学研究, 15 巻 1 号 7-12, 2011. 6
2. 高橋治郎, 自然と向き合う環境教育の取り組み, 愛媛大学教育実践総合センター紀要 29 巻, 29-37, 2011. 7



3. 高橋治郎, 防災に向け, さらなる「地学」教育を, 愛媛大学教育学部紀要 58 巻 119-124, 2011. 10
4. 高橋治郎, 愛媛県, 砥部衝上断層の古絵はがきと地すべり堆積物, 愛媛の地学研究 15 巻 2 号 13-17, 2011. 12
5. 岡崎 晃・高橋治郎, 総合的な学習の時間を使った防災教育(共著), 日本理科教育学会四国支部会報 30 号 35-36, 2011. 12
6. 高橋治郎, 理科担当教員が担わなければならない学校防災, 日本理科教育学会四国支部会報 30 号 33-34, 2011. 12
7. 高橋治郎, 理科担当教員が担わなければならない学校防災, 日本理科教育学会四国支部大会, 2011. 12
8. 岡崎 晃・高橋治郎, 総合的な学習の時間を使った防災教育(共同), 日本理科教育学会四国支部大会, 2011. 12

## 板屋 英治

### 社会貢献活動:

1. 2011. 8. 4: 「山口豪雨災害における TEC-FORCE について」, 改正土砂災害防止法に関する説明会, 大洲河川国道事務所, 事務所大会議室
2. 2011. 9. 4: 「防災情報研究センターの取り組み」, 防災講演会「津波防災を考える in 真穴」, 防災情報研究センター, 真穴地区公民館
3. 2011. 9. 20: 「台風 12 号調査概要」, 平成 23 年台風 12 号災害現地調査報告会, 防災情報研究センター, 愛媛大学社会連携推進機構研修室
4. 2011. 10. 12: 「台風 15 号の被害概要」, 平成 23 年台風 15 号災害報告会, 防災情報研究センター, 愛媛大学社会連携推進機構研修室
5. 2011. 11. 7: 「愛媛県における地域防災力の向上に向けて」, 第 35 回建設技術に関する講習会「東日本大震災の教訓を踏まえた防災・危機管理」, (社) 全日本建設技術協会四国地区連合会, えひめ共済会館
6. 2011. 11. 24-25: 「愛媛大学防災情報研究センターの概要」, 第 1 回世界防災研究所サミット, 京都大学防災研究所, 京都大学宇治キャンパス
7. 2011. 12. 2: 「事業継続計画について」, 事業継続計画についての勉強会, 愛媛県空調衛生設備業協会, 友輪荘会議室
8. 2011. 12. 10: 「全国各地で頻発する自然災害 その現状と課題」, だんだん肱川, 肱川流域会議水の中めがね, 大洲市総合福祉センター
9. 2011. 12. 14: 「災害時の TEC-FORCE 等の初動対応について」, 平成 23 年度水災害対応研修, 四国地方整備局四国技術事務所, 四国地方整備局研修所
10. 2011. 12. 14: 「市町ヒアリング調査の概要(報告)」, 土木学会東日本大震災特別委員会災害対応マネジメント特定テーマ委員会 中間報告, 土木学会講堂
11. 2012. 1. 14: 「最近の風水害, 地震のしくみと被害」, 愛媛県防災士養成講座, 愛媛県県民環境部防災局, 愛媛県南予地方局

12. 2012. 1. 27:「国と砂防ボランティア協会との TEC-FORCE の活動」, 平成 23 年度砂防講習会, 愛媛県砂防ボランティア協会, 愛媛県美術館講堂
13. 2012. 2. 4:「最近の風水害, 地震のしくみと被害」, 愛媛県防災士養成講座, 愛媛県県民環境部防災局, 愛媛県東予地方局
14. 2012. 2. 6:「土砂災害及び洪水災害関係及び今年 9 月の台風第 12 号による紀伊半島大水害について」, 松山地方気象台勉強会, 松山地方気象台
15. 2012. 2. 11:「土砂災害と対策」, 松山市防災士養成講座, 松山市消防局, 松山市保健所・消防合同庁舎大会議室
16. 2012. 2. 15:「東北地方太平洋沖地震における地震・津波災害に関する最新報告」, 東北地方太平洋沖地震・津波災害学習会, 中筋川総合開発工事事務所, 事務所大会議室
17. 2012. 2. 27:「社会福祉施設の防災対策について」, 社会福祉施設防災研修会, 愛媛県中予地方局, 愛媛県中予地方局大会議室
18. 2012. 2. 28:「防災情報伝達のあり方等について」, 肱川講演会, 大洲河川国道事務所, 事務所大会議室
19. 2012. 3. 6:「安全・安心な四国を目指して」, 土木学会本部主催イベント中のセッション「安全な国土への再設計」タスクフォース, 「安全な国土への再設計」土木学会支部連合会議, 東京大学工学部 141 講義室
20. 2012. 3. 7:「頻発する自然災害に備えてー災害対応マネジメントの現状と課題」, 水工学講演会特別講演, 土木学会水工学委員会, 愛媛大学グリーンホール
21. 2012. 3. 9:「会場との意見交換」コーディネーター, アジア太平洋地域の災害を語る, 防災情報研究センター・日本河川協会, 愛媛大学南加記念ホール
22. 土木学会東日本大震災特別委員会 災害対応マネジメント特定テーマ委員会 幹事
23. 四国災害アーカイブス事業検討委員会 委員 ((社)四国建設弘済会)
24. 「安全な国土の再設計」土木学会四国支部タスクフォース 幹事
25. 建設業 BCP 懇談会 委員 (四国地方整備局)
26. 建設業 BCP 懇談会愛媛県部会 委員 (四国地方整備局)
27. 愛媛地域防災力研究連携協議会 (四国整備局, 愛媛県, 市町)
28. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会 委員 (愛媛県)
29. 愛媛県中予地方局社会福祉施設ネットワーク会議 委員
30. えひめ建設業 BCP 等審査会 委員 (愛媛県)
31. 愛南町防災教育連携協力協議会 委員 (愛南町)

論文・研究発表:

1. 井上 要, 板屋 英治:「産官学が連携した建設業における事業継続計画の普及活動」, 土木学会学会誌, vol. 96, pp. 20-21
2. 板屋 英治:「2011 年台風 12 号における大規模深層崩壊等の発生時の災害対応マネジメント」, 土木学会四国支部, 平成 24 年自然災害フォーラム論文集, pp. 83-86
3. 板屋 英治:「2011 年台風 12 号における大規模深層崩壊等の発生時の災害対応マネジメント」, 土木

学会四国支部，高松サポート合同庁舎アイホール，平成24年3月21日

## 松尾 芳雄

社会貢献活動：

1. 農業農村工学会賞選考委員会専門委員
2. 農業農村工学会中国四国支部賞選考委員長
3. 農業農村工学会農村計画研究部会常任幹事
4. 農業農村工学会農業農村情報研究部会運営幹事
5. 農業農村工学会代議員
6. 愛媛県建設工事総合評価審査委員
7. 愛媛県松野町文化的景観調査指導委員会委員
8. 日本学術振興会科学研究費委員会審査委員
9. 日本技術者教育認定機構認定審査チーム長

論文・研究発表：

1. 松尾芳雄，松岡光記：定住視点による株式会社Uを事例とした地場企業の雇用力と評価：農業農村工学会大会講演会：福岡市：2011.9.4
2. 松尾芳雄：農村振興のための農村の情報化における情報技術利用上の諸視点：農業農村工学会中国四国支部大会：高知市：2011.1020

## 相引 眞幸

社会貢献活動：

1. 平成23年3月11日，愛媛大学DMATの後方支援隊として約50時間活動に従事
2. 平成23年4月4日から7日間，文部科学省の要請を受け，宮城県石巻市へ，愛媛大学として医療支援活動に従事
3. 平成23年7月16日，愛媛大学附属病院と東温市との連携のもと，大規模災害訓練を指揮
4. 平成23年9月4日：「愛媛大学病院としての東日本大震災への医療支援 ー急性および亜急性期ー」：地域連携教育講座：松山大学（約250名）
5. 愛媛県メディカルコントロール協議会：会長：愛媛県
6. 愛媛県災害医療対策協議会：委員：愛媛県
7. 愛媛県救急医療対策協議会：委員：愛媛県
8. 中予地域救急医療対策協議会：委員：愛媛県
9. 愛媛県緊急被曝医療ネットワーク調査委員会：委員：原子力安全委員会
10. 平成23年11月18日：功労賞：全日本指定自動車教習所協会連合会

論文・研究発表：

1. 相引眞幸，DICを合併した急性重症病態におけるAT製剤使用の工夫，侵襲と免疫，20：34-36，2011.

2. 相引眞幸, 心肺蘇生術ガイドライン—ILCOR (ERC), RCA (JRC), AHA のガイドライン 2010—救急診療指針, 日本救急医学会編, 改訂第4版, へるす出版 (東京), pp34-38, 2011.
3. Mayuki Aibiki, Bispectral index and suppression ratio during hypothermia after cardiac arrest. Intensive Care Medicine, 37: 1399, 2011.
4. 相引眞幸他, JRC ガイドライン 2010—成人の2次救命処置—心拍再開後の集中治療—, JRC 心肺蘇生術ガイドライン 2010, へるす出版 (東京), pp89-99, 2011.
5. Mayuki Aibiki, Best of the Best Oral Abstract Presentations, Resuscitation Science Symposium (ReSS) Report 2010—AHA Pre-symposium—, Kyowa Kikaku (Tokyo), pp3-6, 2011.
6. M. Aibiki, S. Kikuchi, K. Umakoshi, S. Ohtsubo, M. Ohshita, H. Matsumoto and T. Nishiyama. Good neurological recovery of a post-cardiac arrest patient with very low bispectral index values and high suppression ratios after resumption of spontaneous circulation. Resuscitation, ahead of print on-line, 2011.
7. 相引 眞幸: 傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準の策定における救急輪番制の意義 松山医療圏における成人2次救急輪番制と3次救急病院の共生から: 第2回全国メディカルコントロール協議会: 松山: 平成23年2月4日.
8. 相引眞幸: 心拍再開後の集中治療と予後予測: 第38回日本集中治療医学会: 横浜: 平成23年2月24日
9. 相引眞幸: 敗血症性DICとトロンボモジュリン: 第28回日本集中治療医学会中国四国地方会: 米子: 平成23年6月19日
10. Aibiki M: Surface Cooling for inducing Therapeutic Hypothermia in Post-Cardiac Arrest Syndrome Patients: The 4th International Hypothermia Symposium: Tokyo: 平成23年9月15日
11. 相引眞幸他: JRC 心肺蘇生術 ガイドライン 2010—心拍再開後の集中治療—: 第30回日本蘇生学会: 福島: 平成23年11月18日

## 木村 映善

社会貢献活動:

1. 第31回医療情報学連合大会実行委員委嘱
2. 愛媛県立中央病院医療情報システム調達 外部識者委員

論文・研究発表:

1. 齋藤 英雄, 松井 孝文, 管 里枝, 森田 誠, 山本 仁志, 石原 謙, 木村 映善 : 経営分析システムを活用したDPC業務支援について (DPC ツール機能活用のためのデータ連携): 平成23年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 413-416, 2012.
2. 石川 澄, 合地 明, 奥原 義保, 栗原 幸男, 津久間 秀彦, 田中 武志, 木村 映善, 野々村 辰彦, 園田 武治, 中野 直樹, 堀 信浩, 稲岡 則子 : 患者情報の信憑性を阻害する要因の検証に基づく病院情報システムの再構築: 平成23年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 72-75, 2012.
3. 石原 謙, 木村 映善, 小林 慎治 : これで良いのか? 電子カルテ, DPC, クリニカルパス: 平成23年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 58-59, 2012.

4. 松井 孝文, 管 里枝, 松下 祐子, 末光 純子, 木村 映善, 石原 謙 : 新人診療情報管理士に向けた業務評価について : 平成 23 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 93-95, 2012.
5. 木村 映善 : k-匿名性を利用した医療保健情報の利用可能性についての考察 : 電子情報通信学会 信学技報 111, 223-228, 2012.
6. 木村 映善 : 信憑性の基盤としての正確性に関する議論 : 平成 23 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 89-92, 2012.
7. 國武 学, 山本和憲, 鶴川 健太郎, 木村 映善, 加藤久雄, 長妻 努, 亘 慎一, 村山泰啓, 村田健史. 太陽地球系観測データ解析参照システム[STARS]における情報共有のしくみ (専門知を共有知へ) 平成 23 年度 宇宙科学情報解析シンポジウム.
8. Eizen Kimura, Ken.T Murata, Kaori Fujikawa : Development and evaluation of braille document authoring support system integrated with office suite (in Japanese) : THE IEICE TRANSACTION ON INFORMATION AND SYSTEMS J49-D, 490-493, 2011.
9. 黒河健, 木村映善, 石原謙, 高橋敏明, 三浦裕正. 高校生における新しい運動器検診システムの実際とその課題 愛媛医学. 70.
10. 金谷泰宏, 木村映善, 小林慎治, 玉置洋, 荻野大助, 吉原博幸, 千葉勉 : 今後の難病対策のあり方について 臨床調査個人票の有効活用及び臨床データベースの構築 : 保健医療科学 60, 100-104, 2011.
11. 金谷 泰宏, 木村 映善, 小林 慎治 : 臨床調査個人票の有効活用及び臨床データベースの構築 (特集 今後の難病対策のあり方について) : 保健医療科学 60, 100-104, 2011.
12. 赤松 香里, 森脇 留美子, 三浦 庸介, 片上 敦詞, 天野 利江, 矢野 みゆき, 松尾 真由美, 池田 宜央, 西岡 里枝, 木村 映善, 石原謙 : iPad を利用した内視鏡看護記録の改善への取り組み : 医療情報学 31(Suppl.), 1094-1095, 2011.
13. 菅原 美恵子, 西村 妙子, 木村 映善, 石原 謙. 医療クラークの導入評価 日本医療マネジメント学会雑誌. 408.
14. 15 石川 澄, 奥原 義保, 合地 明, 木村 映善, 津久間 秀彦 : 患者情報の信憑性を阻害する要因の検証に基づく病院情報システムの再構築 : 平成 22 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 139-142, 2011.
15. 海野歩未, 吉松靖文, 村田健史, 木村映善, 藤川かおり : 家庭での学習行動に困難を示す発達障害児への支援 (3) -RA I NMAN 3 の適用効果- : 日本 LD 学会大会発表論文集 20, 434-435, 2011.
16. 津久間 秀彦, 石川 澄, 奥原 義保, 合地 明, 木村 映善. 患者情報の信憑性を阻害する要因の検証に基づく病院情報システムの再構築 第 26 回中四国医療情報研究会.
17. 津久間 秀彦, 田中 武志, 池内 実, 奥原 義保, 木村 映善, 合地 明, 楠岡 英雄, 梅里 良正, 岸 真司, 土屋 文人, 大原 信, 高橋 静子, 村上 典子, 松村 泰志, 大道 久, 石川 澄 : 「患者安全向上」と「後利用に役立つデータ蓄積」の観点からの病院情報システムの評価 : 医療情報学 31(Suppl.), 647-648, 2011.
18. 森脇留美子, 天野利江, 矢野みゆき, 十亀麻未, 久津和亜希子, 松尾真由美, 池田宜央, 木村映善, 石原謙, 三浦庸介, 赤松香里. 内視鏡看護記録の改善への取り組みーiPad 看護記録の開発および導入を試みてー Gastroenterol Endosc. 2859.

19. 柳澤 美幸, 菅原 美恵子, 西村 妙子, 木村 映善, 石原 謙 : DPC における部位・詳細不明コードのマネジメント : 日本医療マネジメント学会雑誌 12, 398, 2011
20. 松井 孝文, 木村 映善, 柳澤 美幸, 石原 謙 : GIS ソフトと DPC データを活用した MDC 分類別地域特性分析の試み : 医療情報学 31(Suppl.), 959-960, 2011
21. 村田健史, 品川裕之, 亙慎一, 村山泰啓, 山本和憲, 渡邊英伸, 井上諭, 鶴川健太郎, 村永和哉, 木村映善, 深沢圭一郎, 荻野竜樹, 東田学, 建部修見. JGN-X と Gfarm による広域分散ストレージシステムとスパコン仮想化 地球電磁気・地球惑星圏学会総会及び講演会予稿集. B010-P012.
22. 木村映善 : 医療現場の効率化に貢献する医療情報システムの共同研究 : 月刊愛媛ジャーナル H23. 12 月号, 82-84, 2011
23. 木村 映善, 小林 慎治, 石原 謙 : 医療情報の標準化手法についてーボトムアップ手法とトップダウン指向の配布の融合ー : 平成 22 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 149-152, 2011.
24. 木村 映善 : 一次・二次利用性も高まる iPad 問診票の威力 : 医事業務 18, 5-10, 2011.
25. 木村 映善 : 電子カルテ導入病院で医療クラークが果たす役割 : 月刊新医療 38, 119-123, 2011.
26. 木村 映善 : 医療 ECM の観点での診療記録管理にむけて : 月刊 IM 50, 23-27, 2011
27. 木村 映善 : 患者自身が iPad で入力する問診システムの使用経験 : インナービジョン 26, 111-114, 2011.
28. 木村 映善 : 医療 ECM 視座での電子化紙文書と電子文書統合に向けた課題 : 新医療 38, 92-95, 2011.
29. 日本医療情報学学会:医療情報サブノート 第2版. 380pages (鍬谷書店, 2011).
30. 斎藤 英雄, 近藤 潤一, 進藤 千晶, 石原 謙, 木村 映善 : 診療行為の実施部署取得による収益計上について : 平成 22 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集, 336-339, 2011.
31. 岡田 久仁子, 木村 映善, 石原 謙, 松下 祐子, 赤堀 澄子, 片上 敦詞, 赤松 香里, 庸介, 三. : 患者署名の電子化によるワークフローの効率化の試み : 医療情報学 31(Suppl.), 1105-1106, 2011.
32. 堀江 忍, 赤堀 澄子, 松下 祐子, 武井 亮, 木村 映善, 石原 謙 : 可搬型媒体からの医用画像取り込みの現状と対応 : 医療情報学 31(Suppl.), 647-648, 2011.
33. 吉川 武樹, 木村 映善, 小林 慎治, 立石 憲彦, 鈴木 洋二, 長倉 俊明, 石原 謙 : 医学生を ME に対して興味を持たせるためのアプローチ : 日本生体医工学会大会プログラム・論文集 50, 02-3-5, 2011.
34. 千田 浩司, 木村 映善, 濱田 浩気, 五十嵐 大, 高木 康彦, 富士 仁, 高橋 克巳, 石原 謙 : 攪乱手法を用いたプライバシー保護医療情報分析の実験評価 : 医療情報学 31(Suppl.), 689-692, 2011.
35. Eizen Kimura, Shinji Kobayashi, Ken Ishihara. Lessons learned from designing clinical data modeling for national surveillance of intractable disease in Japan AMIA 2011 Annual Symposium. 1837.
36. Shinji KOBAYASHI, Eizen KIMURA, Takeki YOSHIKAWA, Hugh LESLIE, Heather LESLIE, Ken ISHIHARA, Masaki YASUKAWA, Tomohiro KURODA, Hiroyuki YOSHIHARA Clinical Data Modeling Using Archetype Technology for National Surveillance of Intractable Diseases in Japan 23rd International Conference of the European Federation for Medical Informatics. in CD-ROM.

37. Eizen Kimura, Shinji Kobayashi, Yasuhiro Kanatani, Ken Ishihara, Tsuneyo Mimori, Ryouyuke Takahashi, Tsutomu Chiba, Hiroyuki Yoshihara : Developing an Electronic Health Record for Intractable Diseases in Japan : Studies in Health Technology and Informatics 169, 255-259, 2011.
38. Eizen Kimura, Shinji Kobayashi, Takeki Yoshikawa, Ken Ishihara. A Framework for an Authorization System with Spatial Reasoning Capacity to Improve Risk Management and Information Security in Healthcare 2011 IEEE/IPSJ International Symposium on Applications and the Internet. 587-591.

### 加藤 匡宏

#### 論文・研究発表：

1. 平岡エレン美幸, 田村優佳, 加藤匡宏: 日本における自殺企図に関する心理社会的要因—比較文化の視点から—: 愛媛大学教育学部紀要: 58: pp179-184: 2011
2. 田村優佳, 山内加奈子, 加藤匡宏: DSM-IV-TR に基づくアスペルガー障害傾向者の職場不適応行動の臨床心理学的見立て: 愛媛大学教育実践総合センター紀要: 29: pp151-157: 2011

### 榊原 正幸

#### 社会貢献活動：

1. 2012. 3. 30, 「EDS による火山ガラスの Na<sub>2</sub>O 量の分析精度とその問題点」, 第 3 回火山研究セミナー, 愛媛大学理学部総合研究棟 I 増築棟 4F ゼミ室 I, 約 10 名
2. 松山市文化財保護審議会 (松山氏文化財保護審議会委員), 松山市教育委員会
3. 一般社団法人日本地球惑星科学連合 環境・災害対応委員 (環境・災害対応委員), 一般社団法人日本地球惑星科学連合
4. 松山市土壌汚染対策専門委員会 (松山市土壌汚染対策専門委員), 松山市
5. 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員, 独立行政法人日本学術振興会
6. 2011. 9. 9, 研究奨励賞, 一般社団法人日本地質学会, 「四国西部における北部秩父帯の大規模逆転構造」, 辻 智大・榊原正幸
7. 2011. 12. 23, 優秀講演賞, 一般社団法人日本地質学会四国支部, 「重金属汚染された水のマツバイによるファイトレメディエーションにおけるクリンカアッシュの Si 肥料としての有効性属」, 藏本 翔・榊原正幸

#### 論文・研究発表：

1. 榊原正幸・彦田真友子・佐野 栄・世良耕一郎, マツバイによる重金属汚染河川の浄化に関する栽培方法の開発. NMCC 共同利用研究成果報文集 17&18, 印刷中.
2. 久保田有紀・榊原正幸・佐野 栄・世良耕一郎, マツバイを用いたファイトレメディエーションにおける Si 肥料の有効性. NMCC 共同利用研究成果報文集 17&18, 印刷中.
3. 藏本 翔・榊原正幸・世良耕一郎, カヤツリグサ科マツバイによる重金属汚染水のファイトレメディエーションにおけるクリンカアッシュの有効性. NMCC 共同利用研究成果報文集 17&18, 印刷中.

4. Kuramoto, S., Sakakibara, M., Sano, S. and Sera, K., Effects of clinker ash as Si fertilizer on phytoremediation for heavy metal contaminated water using *Eleocharis acicularis*, Proceeding of 1st International Seminar of Environmental Geoscience in Asia (in press).
5. Sueoka, Y., Sakakibara, M. and Sera, K., Heavy metal concentrations of lichens in an abandoned mine site, southwest Japan, Proceeding of 1st International Seminar of Environmental Geoscience in Asia (in press).
6. Kubota, Y., Sakakibara, M., Suparka, E. and Sera, K., Hair analysis as a tool in assessing human exposure to Mercury in Indonesia, Proceeding of 1st International Seminar of Environmental Geoscience in Asia (in press).
7. Kubota, Y., Sakakibara, M., Suparka, E., Sano, S. and Sera, K., Hair analysis as a tool in assessing human exposure to lead in West Java, Indonesia, Proceeding of 1st International Seminar of Environmental Geoscience in Asia (in press).
8. Sakakibara, M., Ohmori, Y., Ha, N. T. H., Sano, S. and Sera, K., Phytoremediation of heavy metal-contaminated water and sediment by *Eleocharis acicularis*, CLEAN - Soil, Air, Water, 39, 8, 735-741, 2011.
9. 榎原正幸・彦田真友子・佐野 栄・世良耕一郎, 「重金属汚染された河川水のマツバイによるファイトレメディエーション実験」, 第 21 回環境地質学シンポジウム, 2012. 1. 25.
10. 榎原正幸・久保田有紀, 「放射性セシウムに汚染された水田土壌のマツバイによるファイトレメディエーション」, 第 21 回環境地質学シンポジウム, 2012. 1. 24.
11. 蔵本 翔・榎原正幸, 「重金属汚染された水のマツバイによるファイトレメディエーションにおけるクリンカアッシュの Si 肥料としての有効性」, 第 11 回日本地質学会四国支部講演会, 2011. 12. 23.
12. 末岡裕理・榎原正幸・世良耕一郎「廃止鉱山残土堆積場に自生する地衣類の重金属濃度」, 第 11 回日本地質学会四国支部講演会, 2011. 12. 23.
13. Okazaki, K., Ito, Y. and Sakakibara, M., "Case study on the application of helicopter-borne magnetic survey over a
14. large overburden tunnel in northeastern Hokkaido, Japan" Proceedings of the 10th SEGJ International Symposium -Imaging and Interpretation-, Kyoto, Japan, Nov. 20-22, 2011
15. Sakakibara, M., Hikoda, M., Sano, S. and Sera, K., "Phytoremediation by *Eleocharis acicularis* of heavy metal-contaminated river water in a mine site, southwestern Japan", 2011 International Joint Symposium of IEGS (Korea), NIRE and CERI (Japan)- Studies on Survey and Evaluation Technologies of Underground Environment -, Nov. 8, 2011.
16. Sugawara, H., Sakakibara, M., Ikehara M. and Jamie L., "Microbial trace fossils discovered from altered basaltic glass: Implications of earth-analog study for astrobiology on Mars", 2011 International Joint Symposium of IEGS (Korea), NIRE and CERI (Japan)- Studies on Survey and Evaluation Technologies of Underground Environment -, Nov. 8, 2011.
17. Sakakibara, M., Sugawara, H., Tsuji, T., Ikehara, M. and Laird, J. S., "Filamentous Microbial Fossils from Metabasalt in Low-Grade Metamorphosed Jurassic Northern Chichibu Belt, an Accretionary Complex in Central Shikoku, Japan", 2011 PERC Planetary Geology Field Symposium,



Nov. 4-6, 2011.

18. Sugawara, H., Sakakibara, M., Ikehara M. and Jamie L., “Microbial trace fossils discovered from altered basaltic glass: Implications of earth-analog study for astrobiology on Mars” , 2011 PERC Planetary Geology Field Symposium, Nov. 4-6, 2011.
19. Sakakibara, M., “Heavy metal Pollutions and Remediations” , International Conference on Natural Science and Geological Aspect of Gorontalo, Oct. 12, 2011.
20. Kuramoto, S., Sakakibara, M., Sano, S. and Sera, K., “Effects of clinker ash as Si fertilizer on phytoremediation for heavy metal contaminated water using *Eleocharis acicularis*” , International Conference on Natural Science and Geological Aspect of Gorontalo, Oct. 12, 2011.
21. Sueoka, Y., Sakakibara, M. and Sera, K., “Heavy metal concentrations of lichens in an abandoned mine site, southwest Japan” , International Conference on Natural Science and Geological Aspect of Gorontalo, Oct. 12, 2011.
22. Kubota, Y., Sakakibara, M., Suparka, E., Indriaty, Y., Sano, S. and Sera, K., “Hair analysis as a tool in assessing human exposure to heavy metal in Indonesia” , International Conference on Natural Science and Geological Aspect of Gorontalo, Oct. 12, 2011.
23. Sakakibara, M., “Phytoremediation and phytomining of heavy metal-contaminated water and soil by aquatic macrophyte *Eleocharis acicularis*” , 1st International Seminar of Environmental Geoscience in Asia, Oct. 5-6, 2011.
24. Kuramoto, S., Sakakibara, M., Sano, S. and Sera, K., “Effects of clinker ash as Si fertilizer on phytoremediation for heavy metal contaminated water using *Eleocharis acicularis*” , 1st International Seminar of Environmental Geoscience in Asia, Oct. 5-6, 2011.
25. Sueoka, Y., Sakakibara, M. and Sera, K., “Heavy metal concentrations of lichens in an abandoned mine site, southwest Japan” , 1st International Seminar of Environmental Geoscience in Asia, Oct. 5-6, 2011.
26. Kubota, Y., Sakakibara, M., Suparka, E., Indriaty, Y., Sano, S. and Sera, K., “Hair analysis as a tool in assessing human exposure to heavy metal in Indonesia” , 1st International Seminar of Environmental Geoscience in Asia, Oct. 5-6, 2011.
27. Soyama, C., Sakakibara, M., Sano, S., Ikeda, M. and Tsuji, T. “Volcanic petrology of Aso-4 tephra (ca. 90 ka) in western Shikoku, southwestern Japan” , 1st International Seminar of Environmental Geoscience in Asia, Oct. 5-6, 2011.
28. 遠藤晴美・榊原正幸・佐野 栄, 鬼界アカホヤテフラにおけるマグマ混交・混合, 日本地質学会第118年学術大会, 茨城, 2011.9.9
29. 辻 智大・榊原正幸, 北部秩父帯におけるプレート内火成作用起源玄武岩類と遠洋性堆積岩の初生的関係, 日本地質学会第118年学術大会, 茨城, 2011.9.11
30. 榊原正幸・彦田真友子・佐野 栄・世良耕一郎, 「重金属汚染された河川のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション」, 第17回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会, 2011.6.16-17.

## 岡村 未対

### 社会貢献活動：

1. 2011.12：液状化講習会，松前町，（80名）
2. 2011.10：平成23年度松山市防災士養成講座，愛媛県松山庁舎（180名）
3. 社会資本整備審議会道路分科会 委員（国土交通省道路局）
4. 河川堤防耐震対策緊急検討委員会（国土交通省河川局）委員
5. 液状化対策技術検討会議（国土交通省大臣官房）委員
6. 北上川等堤防復旧技術検討会 委員（国土交通省東北地方整備局）
7. 堤防研究会（国土交通省 水資源国土保全局）委員
8. 堤防研究会耐震WG（国土交通省 水資源国土保全局）委員
9. 四国地方整備局総合評価地域小委員会 委員（国土交通省四国地方整備局）
10. 伊方原子力発電所環境安全管理委員会技術専門部会 委員（愛媛県）
11. 伊方原子力発電所環境安全管理委員会 委員（愛媛県）
12. Earthquake Geotechnical Engineering and Associated Problems 委員（国際地盤工学会）
13. Coastal and river disaster mitigation and rehabilitation 委員会 委員（国際地盤工学会）
14. International Journal of Physical Modelling in Geotechnics 編集委員会 委員（国際地盤工学会）
15. Geotechnology for Natural Hazards 国内委員会 委員（地盤工学会）
16. 地盤工学ジャーナル編集委員会 委員（地盤工学会）
17. 地盤工学会四国支部 評議員（地盤工学会四国支部）
18. NEXCO 四国耐震性評価手法検討委員会 幹事（地盤工学会四国支部）
19. 地盤工学会四国支部四国地域地盤問題研究会 委員長（地盤工学会四国支部）
20. アジア土木学協会連合協議会担当委員会 幹事（土木学会）
21. 土木学会教育企画・人材育成委員会 大学・大学院教育小委員会 委員長（土木学会）
22. 四国ブロック南海地震研究委員会 幹事（土木学会四国支部）
23. 地盤工学会 代議員
24. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会委員（愛媛県）
25. 高松港等における埋め立て地の液状化予測手法検討会委員（国土交通省四国地方整備局）
26. 集積場管理対策研究会（経済産業省原子力保安院）委員
27. 土木学会地盤工学委員会堤防小委員会 委員長
28. 土木学会教育企画委員会 副委員長
29. 土木学会全国大会実行委員会特別講演部会 部会長
30. 土木学会全国大会実行委員会常任委員会 委員

### 論文・研究発表：

1. 原忠，大河原正文，岡村未対，渦岡良介，大角恒雄，山中稔，石原行博，常川善弘（2012）東北地方太平洋沖地震による岩手県沿岸中南部の被災の概要，地盤工学ジャーナル Vol. 7, No. 1
2. 原忠，岡村未対，渦岡良介，石原行博，上野勝利（2012）：2011年東北地方太平洋沖地震における河川堤防の津波による被害の特徴，地盤工学ジャーナル Vol. 7, No. 1

3. Mitsu Okamura and Toshiyuki Inoue (2012): Preparation of fully saturated models for liquefaction study, Int. J. Physical Modelling in Geotechnics, Vol. 12, No. 1
4. Ikuo Towhata, Mitsu Okamura and Hirohumi Toyota (2011): Visit of ATC3 committee on slope instability sites in Bhutan, ISSMGE Bulletin, Vol. 5, Issue 5
5. R.P. Orense, T. Kiyota, Yamada, Y. Hosono, M. Okamura and S. Yasuda (2011): Comparison of liquefaction features observed during the 2010 and 2011 Canterbury earthquakes, Seismological Research Letters, Seismological Society of America, Vol. 82, No. 6
6. Mitsu Okamura and Shuji Tamamura (2011): Seismic stability of embankment on soft soil deposit, Int. J. Physical Modelling in Geotechnics, Vol. 11, No. 2
7. Mitsu Okamura, Masaya Takebayashi, Katsuji Nishida, Nao Fujii, Motoharu Jinguji, Takehiko Imasato, Hideaki Yasuhara, and Emiko Nakagawa (2011): In-Situ Desaturation Test by Air Injection and Its Evaluation through Field Monitoring and Multiphase Flow Simulation, Journal of Geotechnical and Geoenvironmental Engineering, Proc. ASCE, Vol. 137 , No. 7
8. T. Okamoto and M. Okamura (2011): Centrifuge Tests on Effects of Soil Desaturation as a Liquefaction Countermeasure on Embankment Settlement, International Geotechnical Symposium "GEOTECHNICAL ENGINEERING FOR DISASTER PREVENTION & REDUCTION"
9. M. Okamura (2011): In-situ Air Injection as a Liquefaction Countermeasure, International Geotechnical Symposium "GEOTECHNICAL ENGINEERING FOR DISASTER PREVENTION & REDUCTION"
10. H. Yasuhara, K. Hayashi, and M. Okamura (2011): Evolution in Mechanical and Hydraulic Properties of Calcite-Cemented Sand Mediated by Biocatalyst, Proceedings of Geo-Frontiers 2011, The Annual Meeting of the ASCE Geo-Institute, Dallas, Texas
11. H. Yasuhara, K. Hayashi and M. Okamura : Physical properties of calcite-cemented sand improved by urease-type biogROUT, Proc. the Twenty-third KKCNN Symposium on Civil Engineering, pp.347-350, 2010.9
12. Yasuhara, H., Hayashi, K. and Okamura, M. (2011): Evolution in Mechanical and Hydraulic Properties of Calcite - Cemented Sand Mediated by Biocatalyst , Proc. Geo - Frontiers 2011: Advances in Geotechnical Engineering

## 小林 範之

社会貢献活動：

1. 「南予用水地区」技術検討委員会：〔委員〕：農林水産省中国四国農政局
2. 愛媛県農業水利施設保全対策検討会：(アドバイザー)：愛媛県
3. 建設工事総合評価審査委員会：(委員)：愛媛県
4. 農業農村整備事業推進実行委員会 (委員)：愛媛県
5. 史跡松山城整備検討委員会：(委員)：松山市
6. 宇和島城保存整備検討委員会：(委員)：宇和島市
7. 農業農村整備事業推進実行委員会 (委員)：愛媛県
8. 地盤工学会論文集編集委員会：(委員)：地盤工学会

9. 農業農村工学会材料施工部会：(幹事)：農業農村工学会
10. 農業農村工学会学会賞選考委員会：(専門委員)：農業農村工学会
11. 日本雨水資源化システム学会編集委員会：(委員)：日本雨水資源化システム学会
12. 客員研究員：(財)日本水土総合研究所

論文・研究発表：

1. Yoshitake, Y., Kobayashi, N., Fujihara, M. and Nishiyama, T.: An analytical solution of seepage discharge from a reservoir of embankment dam with triangular soil blanket and its applicability: The Japanese society of irrigation, drainage and rural engineering: Irrigation, Drainage and Rural Engineering Journal: No. 272(79-2), 65-71: 2011.
2. Fujihara, M., Kobayashi, N., Nishiyama, T., Izumi, T. and Yoshitake, Y.: Optimum design of triangular/rectangular soil blanket under given design seepage discharge: The Japanese society of irrigation, drainage and rural engineering: Irrigation, Drainage and Rural Engineering Journal: No. 276(79-6), 25-30: 2011.
3. Kobayashi, N., Fujihara, M., Nishiyama, T., Izumi, T. and Yoshitake, Y.: Optimum design of triangular/rectangular soil blanket under given volume of blanket material: The Japanese society of irrigation, drainage and rural engineering: Irrigation, Drainage and Rural Engineering Journal: No. 276(79-6), 31-36: 2011.
4. 藤原正幸, ラポン エドワード, 泉智揮, 濱上邦彦, 小林範之, 垣原登志子: 四万十川支流広見川のSS負荷量とそれに及ぼす水田農業の影響: 土木学会: 土木学会論文集B1(水工学), Vol. 68, No. 4, I\_631-I\_636: 2012.
5. Kobayashi, N., Mochida, J., Sumida, Y. and Yoshitake, Y.: Evaluation of arching action generated in the backfill between outlet conduit and existing embankment: The Japanese society of irrigation, drainage and rural engineering: Irrigation, Drainage and Rural Engineering Journal, No. 278(80-2), (Acceptance): 2012.
6. Fujihara, M., Kobayashi, N., Nishiyama, T., Izumi, T. and Yoshitake, Y.: Effect of impervious zone width of an embankment dam on blanket design length: Japan rainwater catchment systems association: Journal of Rainwater Catchment Systems, (Acceptance): 2012.
7. Lapong, E., Fujihara, M., Izumi, T., Hamagami, K., Kobayashi, N. and Kakihara, T.: Water quality characterization and index optimization: Japan rainwater catchment systems association: Journal of Rainwater Catchment Systems, (Acceptance): 2012.
8. Yoshitake, Y., Kobayashi, N., Fujihara, M., Nishiyama, T. and Izumi, T.: A Simple model for estimating phreatic surface location and seepage discharge through a small homogeneous earth dam on inclined foundation: The Japanese society of irrigation, drainage and rural engineering: Irrigation, Drainage and Rural Engineering Journal, (Acceptance): 2012.
9. 小林範之, 森本宝, 吉武美孝: 自己組織化マップを援用した物理探査によるグラウト充填領域の推定: 平成23年度農業農村工学会大会講演会: 福岡市: 2011年9月7日)
10. 江川典子, 小林範之, 吉武美孝: 地盤の不確実性を考慮した杭基礎構造物の年損傷確率: 平成23年

度農業農村工学会大会講演会：松山市：2011年9月8日

## 千代田 憲子

社会貢献活動：

1. 2011.9.7:市民工学への回帰―土木の総合性を考える(パネリスト), 土木学会百周年記念討論会, 愛媛大学・南加ホール, 約100名
2. 2011.12:鹿野川ダム改造事業の景観配慮について, 助言
3. 2012.3:JR松山駅付近連続立体交差事業について, 助言
4. 景観施策アドバイザー(四国地方整備局)
5. 愛媛県新長期計画策定会議 委員(愛媛県)
6. 愛媛県屋外広告物審議会 委員(愛媛県)
7. 松山市景観審議会 委員長(松山市)
8. 「二番町通り」交通等まちづくり意見交換会 委員(松山市)
9. 八幡浜港地域交流拠点施設トイレ棟デザイン設計競技審査委員会 委員長(八幡浜市)
10. 重信川河口ワーキング部会 委員(重信川の自然をはぐくむ会)

論文・研究発表：

1. 千代田憲子：和紙の壁紙パネルのためのカラーデザイン, 愛媛大学教育学部紀要, 第58巻, 235-242, 2011.10
2. 千代田憲子:Mizuhiki Works '11-I:h75×w200×d110cm, テキスタイルの未来形 2012 網走展, 網走市立美術館, 2012.3.24-4.30

## 森 伸一郎

社会貢献活動：

1. 2011.4.13:「現地調査報告―土木計画系チーム調査団, 地盤工学会調査団―」, 東日本大震災調査報告会, 愛媛大学防災情報研究センター, 愛媛大学南加ホール
2. 2011.4.24:「東北地方太平洋沖地震による災害の実相と学ぶこと」, 防災キャラバン, 愛媛大学防災情報研究センター・愛南町, 愛南町ホテルサンパール
3. 2011.4.25:「東日本大震災の実相とそこから学ぶリスクセンス」, 地域振興委員連絡会議, 松山商工会議所, 松山商工会議所
4. 2011.5.17:「東日本大震災から学ぶ, 地質調査業界に求められること」, 四国地質調査業協会愛媛支部技術講習会, 四国地質調査業協会愛媛支部, 愛媛県武道館 大会議室
5. 2011.5.18:「東日本大震災から学ぶ, 学校に求められること」, 平成23年度総合危機管理等研修会(中予地区), 愛媛県教育委員会, 愛媛県武道館 副道場
6. 2011.5.19:「東日本大震災から学ぶ, 学校に求められること」, 平成23年度総合危機管理等研修会(東予地区), 愛媛県教育委員会, 愛媛県総合科学博物館 多目的ホール
7. 2011.5.19:平成23年度防災インストラクター養成講座(東予地区), 愛媛県危機管理室, 愛媛県東予地方局

8. 2011. 5. 20:「東日本大震災から学ぶ, 学校に求められること」, 平成 23 年度総合危機管理等研修会 (南予地区), 愛媛県教育委員会, 愛媛県歴史文化博物館 多目的ホール
9. 2011. 5. 20: 平成 23 年度防災インストラクター養成講座 (南予地区), 愛媛県危機管理室, 愛媛県南予地方局
10. 2011. 6. 4: 内海中学校 防災教育研修会, 愛南町立内海中学校
11. 2011. 6. 5:「東日本大震災から学ぶー中学生と周囲に求められることー」, 内海中学校防災講演会, 愛南町立内海中学校
12. 2011. 6. 13:「東日本大震災から学ぶ, 損保業界に求められること」, 損保協会四国支部, あいおいニッセイ同和損保愛媛支店 4 階会議室
13. 2011. 6. 22:「地震と被害の基礎知識とその応用」, 高大連携プログラム講義, 愛媛大学工学部, 県立松山北高等学校高校 (42 名)
14. 2011. 7. 1:「東日本大震災の実相とリスクセンスを磨く産業教育へ」, 愛媛県産業教育振興会総会, 愛媛県産業教育振興会
15. 2011. 7. 27:「地震と被害の基礎知識とその応用」, 高大連携プログラム, 愛媛大学工学部, 県立松山西中等教育学校
16. 2011. 8. 6:「東日本大震災の実相とリスクセンスを磨く災害教育」, つくしの会 (「宇和島地区公立小・中学校女性管理職の会」), タオル美術館 ICHIHURO 4 階ミニシアター (50 名)
17. 2011. 8. 24:「東日本大震災に見るリスクセンス」, 今治市朝倉地区小・中学校, タオル美術館 ICHIHURO 4 階ミニシアター
18. 2011. 8. 24:「ワークショップ 大地震のときの登下校中の安全を守る」, 今治市朝倉地区小・中学校, 上朝小学校
19. 2011. 8. 25:「東日本大震災の実相と 学ぶべきこと」, 年次総会, 松山市医師会
20. 2011. 8. 28:「パネルディスカッション」, 防災フォーラム, 愛南町
21. 2011. 9. 16:「地震リスクの理解と地震保険の意義 (今回の震災を踏まえた保険会社・代理店としての役割について)」, 日本興和保険四国支店 (40 名)
22. 2011. 9. 17:「東日本大震災の実態と求められる技術」, 中国・四国地区国立大学工学系学部合同入試説明会, 愛媛大学工学部
23. 2011. 9. 19:「災害時, 死に近づくからくり」, セカンドライフ 元気に Work ワク働こう!, 社団法人シルバー人材センター, 南海放送テレスタター
24. 2011. 9. 19:「大震災から身を守る 100 の方法」, セカンドライフ 元気に Work ワク働こう!, 社団法人シルバー人材センター, 南海放送テレスタター
25. 2011. 10. 5:「地震と被害の基礎知識とその応用」, 高大連携プログラム, 愛媛大学工学部, 県立今治明德高等学校矢田分校 (15 名)
26. 2011. 10. 28:「南海地震と危機管理」, 生活協同組合コープえひめ虹の会「秋の学習会」, 生活協同組合コープえひめ虹の会, 松山国際ホテル
27. 2011. 11. 2:「危険物安全のための南海地震対策ー最近の地震から学ぶー」, 新居浜市危険物安全協会創立 60 周年記念式典, 新居浜市危険物安全協会, 新居浜市消防本部 4 階 防災コミュニティーセンター (150 名)

28. 2012. 3. 10 : 「東日本大震災から 1 年を迎え」, 防災キャラバン, 愛媛大学防災情報研究センター・松山市, 愛媛大学南加記念ホール (210 名)

## 吉井 稔雄

### 社会貢献活動 :

1. 基調講演 : 集計 QK を用いたエリア交通管制システム, UTMS セミナー2011, 国際連合大学 (2011. 11)
2. 座談会 安全・安心で住みよい「まち」づくりに向けて (特集 安全・安心・住みよいまちへー東南海・南海地震に備えるー) 足立 敏之, 柏谷 増男, 重川 希志依 [コーディネーター] 吉井 稔雄, 土木学会誌 96 巻 9 号 16-23 頁, 2011. 9

### 論文・研究発表 :

1. Y. Shiomi, T. Yoshii and R. Kitamura: Platoon-Based Traffic Flow Model for Estimating Breakdown Probability at Single-lane Expressway Bottlenecks, Journal of Transportation and Traffic Theory, pp591-610, 2011. 7.
2. 吉井稔雄, 兵頭知, 倉内慎也 : 都市内高速道路における交通事故発生リスク要因分析, 第 31 回交通工学研究発表会論文報告集, pp93-98, 2011. 9
3. 松本洋輔, 吉井稔雄 : 集計 QK ならびにローカル LP を組み合わせたランプメータリング制御の提案, 第 31 回交通工学研究発表会論文報告集, pp1-6, 2011. 9
4. Y. Shiomi, T. Yoshii and R. Kitamura: Platoon-based traffic flow model for estimating breakdown probability at single-lane expressway bottlenecks, Transportation Research Part B: Methodological, Volume 45, Issue 9, pp. 1314-1330, 2011. 11
5. 兵頭知, 吉井稔雄, 中神ちなつ, 倉内慎也 : 都市内高速道路における交通流状態に着目した事故要因分析, 平成 23 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2011. 5
6. 松本洋輔, 吉井稔雄, 藤原拓, 倉内慎也 : 道路ネットワークと交通状況に適応したランプ流入制御の効果分析, 平成 23 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2011. 5
7. 藤原磨名夢, 吉井稔雄, 麻生雅之, 倉内慎也 : マクロな統計指標が都市圏交通の自転車分担率に与える影響分析, 平成 23 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2011. 5
8. 高橋昌幸, 吉井稔雄, 山本誠也, 倉内慎也 : 四国における交通機関分担率に関する基礎分析, 平成 23 年度四国支部技術研究発表会, CD-ROM, 2011. 5
9. 松本洋輔, 吉井稔雄 : 交通事故発生リスク算定シミュレーションの構築, 土木学会第 66 回年次学術講演会講演集 第 4 部 Vol. 66, pp. 419-420, 2011. 9.
10. 吉井稔雄, 倉内慎也, 高橋昌幸, 山本誠也 : 四国における交通機関分担率推定モデルの構築, 土木学会第 66 回年次学術講演会講演集 第 4 部 Vol. 66, pp. 93-94, 2011. 9.
11. 藤原磨名夢, 吉井稔雄, 麻生雅之, 倉内慎也 : 都市における自転車分担率に影響を与える要因に関する研究, 土木学会第 66 回年次学術講演会講演集 第 4 部 Vol. 66, pp. 545-546, 2011. 9.
12. 兵頭知, 吉井稔雄, 倉内慎也 : 都市内高速道路における交通事故発生リスクの要因分析, 土木学会第 66 回年次学術講演会講演集 第 4 部 Vol. 66, pp. 405-406, 2011. 9.
13. Toshio Yoshii: Impact of Traffic States on Traffic Accident Risk, 2nd International Workshop

on Traffic Data Collection & its Standardisation, Brisbane, Australia, 2011.9.

14. 松本洋輔, 吉井稔雄, 高山雄貴: 事故リスク算定シミュレーションを用いたランプ流入制御実施効果分析, 第44回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2011.11.
15. 藤原磨名夢, 吉井稔雄, 倉内慎也: 都市における自転車分担率に影響を与える要因に関する研究, 第44回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2011.11.
16. 兵頭知, 吉井稔雄, 高山雄貴: 都市内高速道路における多車線道路区間を考慮した事故発生リスク要因分析, 第44回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2011.11.
17. 薬師神茂, 畝本真結, 吉井稔雄: 交通騒音が不快感及び集中力に与える影響の分析, 第44回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2011.11.
18. 麻生雅之, 吉井稔雄, 高山雄貴: 幹線旅客を対象とした四国の交通需要予測モデルの構築, 第44回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2011.11.
19. 山本誠也, 高山雄貴, 吉井稔雄: 輸送密度の経済が産業集積パターンに与える影響, 第44回土木計画学研究発表会・講演集, CD-ROM, 2011.11.
20. 松本洋輔, 吉井稔雄: ランプ流入制御による事故削減効果, 第10回 ITS シンポジウム 2011.12

## 門田 章宏

### 社会貢献活動:

1. 平成24年2月17日: 平面二次元流・河床変動解析手法講習会: 大洲河川国道事務所: 約10名
2. 小田川のかわづくり検討会顧問
3. 国土交通省四国地方整備局河川・溪流環境アドバイザー
4. 平成23年度土木学会全国大会第II部門プログラム編成委員
5. 平成23年度土木学会全国大会準備委員会委員
6. 愛媛県建設工事総合評価審査委員
7. 土木学会水工学委員会委員兼幹事
8. 重信川流域自然再生事業河口ワーキンググループ委員
9. 国土交通省四国地方整備局 リバーカウンセラー
10. 土木学会四国支部 ホームページ委員会 委員

### 論文・研究発表:

1. ADCP を用いた洪水流観測に基づいた橋脚構造物周辺の三次元流況解析, 門田章宏・岡田将治, 水工学論文集, 第55巻, pp.S1063-S1068, 2011.
2. Stochastic Generation of Daily Ground Water Levels by Artificial Neural Networks, Camilo A. S. de Farias, Akihiro Kadota, Koichi Suzuki, Kazue Shigematsu, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE, Vol.55, pp.S55-S60, 2011.
3. Mean and Coherent Structures around T-type and L-type Groynes, A. Kadota and C. Asayama, Proceedings of VII International Symposium on Stratified Flows, Roma, Italy, Paper no.1160, 2011.
4. Development of Large Scale Vortex around T-type and L-type Groynes, A. Kadota and K. Suzuki,



Proceedings of the 34th IAHR World Congress, Brisbane, Australia, pp.2476-2483, 2011.

5. 急流河川水衝部護岸のための水制の効果に関する研究, 河端知佳・門田章宏・重松和恵, 土木学会論文誌 B1(水工学) Vol.68, No.4, I\_829-I\_834, 2012.
6. 四万十川橋脚周辺の三次元流況に関する研究, 加藤雄介・門田章宏・重松和恵, 土木学会第 66 回年次学術講演会講演概要集, No. II-017, pp.33-34, 2011.
7. 重信川水衝部護岸のための水制の効果に関する研究, 河端知佳・門田章宏・重松和恵, 土木学会第 66 回年次学術講演会講演概要集, No. II-018, pp.35-36, 2011.
8. 急流河川水衝部護岸のための水制の効果に関する研究, 河端知佳・門田章宏・重松和恵, 平成 23 年度土木学会四国支部第 17 回技術研究発表会講演概要集, pp.91-92, 2012.
9. 四万十川橋脚周辺の三次元流況解析, 加藤雄介・門田章宏・重松和恵, 平成 23 年度土木学会四国支部第 17 回技術研究発表会講演概要集, pp.98-99, 2012.

## 中村 孝幸

### 社会貢献活動:

1. 7月29日, 波力発電型低反射防波堤の開発, 第2回愛媛大学学術フォーラム, 愛媛大学総合情報メディアセンター・メディアホール, 100名程度
2. 12月11日, 潮流エネルギーを活用しよう - 来島海峡の潮流を利用した発電とその展望, 公開講座 自然エネルギーとエコライフ, NPO法人 愛媛大学校友会人材活用センター, 愛媛大学総合情報メディアセンター・メディアホール, 100名程度
3. 土木学会海洋開発委員会・委員
4. (財)災害科学研究所・研究員

### 論文・研究発表:

1. 中村孝幸・川村善郎・山根克己: 鉛直混合促進型浮体の効果に及ぼす波浪動揺の影響に関する研究, 土木学会論文誌 B2(海岸工学), 土木学会論文誌 B2(海岸工学), 第 67 巻, No.1, pp.1086-1090, 2011.11.
2. 中村孝幸・Nyein Zin LATT・東和希・山先達也: 港口部共振装置による長周期波の制御効果に関する研究, 土木学会論文誌 B3(海洋開発), 第 67 巻, No.2, I\_892-I\_896, 2011,12.
3. Nyein Zin LATT and Takayuki Nakamura: Effectiveness of a Newly Developed Resonator against Tsunamis, 土木学会論文誌 B3(海洋開発), 第 67 巻, No.2, I\_637-I\_642, 2011,12.
4. 井国光, 中村 孝幸, 安井孝, 二宮一成: 来島海峡周辺海域における潮流エネルギー賦存量の推定, 土木学会論文誌 B3(海洋開発), 第 67 巻, No.2, I\_190-I\_195, 2011,12.
5. 中村 孝幸, 村上寛洋: 2重式カーテン構造を採用した港外水導入方式の海水交換防波堤に関する研究, 土木学会論文誌 B3(海洋開発), 第 67 巻, No.2, I\_131-I\_136, 2011,12.
6. Hideyuki Kida and Takayuki Nakamura et al: Effectiveness of Seafloor Mounted Structures for Upwelling in Deep Seas, Proceedings of the Twenty-first International Offshore and Polar Engineering Conference, Vol.8, pp.1141-1145, 2011, June.
7. 中村孝幸: 鉛直混合促進型浮体の効果と動揺特性に関する研究, 土木学会全国大会, 愛媛大学,

2011.9/1-3.

## 森脇 亮

### 社会貢献活動：

1. 2011.10.1：「東日本大震災の実態と今後に必要な科学と社会技術」愛媛大学女子中高生の理工系進路選択支援事業，愛媛大学女性未来育成センター主催，参加者 40 名
2. 2011.10.21：「東日本大震災の実態と今後の対策」高大連携プログラム，参加者 30 名
3. 四国地方整備局総合評価地域小委員会（国内 国土交通省四国地方整備局）
4. 愛媛県建設工事総合評価審査委員（国内 愛媛県）
5. ダム管理フォローアップ委員会（国内 国土交通省四国地方整備局）
6. リバーカウンセラー（国内）
7. 河川・溪流環境アドバイザー（国内 国土交通省四国地方整備局）

### 論文・研究発表：

1. 都市の気象と気候（第5章），気象研究ノート第224号，103-154，2012年2月
2. 瀬切れによる河川表面水の消失が河川近傍の温熱環境に及ぼす影響 森脇 亮・亀井祐紀・藤森祥文，土木学会水工学論文集，I\_1747-I\_1752，2012年3月
3. 松山平野におけるドライアイランド現象に関する研究 渡部桂子・藤井恵人・森脇 亮，土木学会水工学論文集，I\_1765-I\_1770，2012年3月
4. Particle image velocimetry measurements of turbulent flow within outdoor and indoor urban scale models and flushing motions in urban canopy layers Takimoto, H., Sato, A., Barlow, J. F., Moriwaki, R., Inagaki, A., Onomura, S., and Kanda, M. Boundary-Layer Meteorology, Vol.140 (2011) pp.295-314
5. 松山平野における降水量日変化の時空間特性，○藤本雅人，森脇亮，渡部桂子，平成23年度四国支部技術研究発表会，75，平成23年5月14日，香川大学
6. 瀬切れによる河川表面水の消失が河川周辺の温熱環境に及ぼす影響，○亀井祐紀，小出若菜，森脇亮，平成23年度四国支部技術研究発表会，77，平成23年5月14日，香川大学
7. 建物アスペクト比の変化に伴う都市キャノピー流れの変化に関する数値実験，○岩堂哲也，森脇亮，平成23年度四国支部技術研究発表会，107，平成23年5月14日，香川大学
8. 松山平野におけるヒートアイランドの特性とメカニズムの解明，○森本一行，森脇亮，藤井恵人，重谷祐樹，平成23年度四国支部技術研究発表会，109，平成23年5月14日，香川大学
9. 松山平野におけるドライアイランド現象に関する研究，○渡部桂子，森脇亮，藤井恵人，重谷祐樹，平成23年度四国支部技術研究発表会，111，平成23年5月14日，香川大学
10. 松山平野における降水量日変化の時空間特性，○藤本雅人，森脇亮，渡部桂子，土木学会第66回年次学術講演会，303-304，平成23年9月7-9日，愛媛大学
11. 松山平野におけるドライアイランド現象に関する研究，○渡部桂子，森脇亮，重谷祐樹，藤井恵人，土木学会第66回年次学術講演会，315-316，平成23年9月7-9日，愛媛大学
12. 松山平野におけるヒートアイランドの特性とメカニズムの解明，○森本一行，藤森祥文，森脇亮，

土木学会第 66 回年次学術講演会, 317-318, 平成 23 年 9 月 7-9 日, 愛媛大学

13. 河川表面水の消失と河川周辺の温熱環境の関係, 亀井祐紀, 小出若奈, ○森脇 亮, 土木学会第 66 回年次学術講演会, 319-320, 平成 23 年 9 月 7-9 日, 愛媛大学

## 二神 透

社会貢献活動:

1. 国交省(霞が関)第5回移動支援勉強会(臨時委員)
2. 防災に強いまちづくり検討会委員(四国地方整備局)
3. 石手川流域ビジョン委員会
4. 重信川の自然をはぐくむ会(NPO)
5. 愛媛県国土利用計画審議会委員
6. 愛媛県河川整備検討委員会(愛媛県)
7. 愛媛県土地収用事業認定審議会(愛媛県)
8. 愛媛地域防災力研究連携協議会避難問題研究会座長

論文・研究発表:

1. 二神 透, 河口 尚紀, 門脇 玄治, 前川 聡一, 渡部 正康: GPS・動画像データを用いた救急車両の走行動態分析, 土木学会論文集 D3(土木計画学)Vol. 67 No. 5(土木計画学研究・論文集 28 巻 9 頁 2011.
2. 二神 透, 木俣 昇, 濱本 憲一郎: 重点木造密集市街地における地震火災リスク・コミュニケーションに関する研究, 土木学会論文集 D3(土木計画学) Vol. 67 No. 5(土木計画学研究・論文集 28 巻 9 頁 2011,
3. 二神透・濱本憲一郎・大本翔平: 津波避難勧告における行政・自主防災組織・住民の対応行動と課題-愛媛県宇和海沿岸 5 市町を対象として-, 土木学会論文集 F6(安全問題)(安全問題・論文集 6 頁 2011,
4. 二神透・大本翔平・濱本憲一郎: 大地震時の火災延焼シミュレーション・システムを用いた地域防災力向上支援研究, 土木学会論文集 F6(安全問題)(安全問題・論文集 6 頁 2011.
5. 池田達朗・二神透: 松山市救急搬送記録データを用いた現場滞在時間分析に関する研究, 土木計画学研究・講演集 Vol. 43, 論文 No. 57, 2011
6. 門脇玄治・二神透: 松山市における救急搬送シミュレータ構築のための基礎的研究, 土木計画学研究・講演集 Vol. 43, 論文 No. 63, 2011
7. 二神透・木俣昇・武部真有記: 津波災害を対象としたリスクコミュニケーション的考察 - 西予市明浜町俵津を事例として -, 土木計画学研究・講演集 Vol. 43, 論文 No. 165, 2011
8. 宮本拓史・二神透・前川聡一: 救急活動記録を用いた救急病院運用体制の評価と改善案の提示, 土木計画学研究・講演集 Vol. 43, 論文 No. 58, 2011
9. 大本翔平・二神透: 連合自主防災組織を対象とした広域地震火災延焼シミュレーションの活用研究, 土木計画学研究・講演集 Vol. 44, 論文 No. 259, 2011
10. 濱本憲一郎・二神: 大震時火災延焼シミュレーションシステムの検証に関する基礎的研究, 土木計画学研究・講演集 Vol. 44, No. 182, 2011

11. 門脇玄治・二神透：救急車の実走行データを用いた救急搬送シミュレータの開発のための基礎分析，土木計画学研究・講演集 Vol. 44，論文 No. 197，2011
12. 宮本拓史・二神透・河口尚紀：GPS・動画像データを用いた道路構造と救急車両の走行動態の関係に関する分析，土木計画学研究・講演集 Vol. 44，論文 No. 201，2011
13. 二神透・武部真有記・濱本憲一郎：津波危険地域における避難計画支援システムの開発と評価に関する研究，平成 23 年度土木学会四国支部第十七回技術研究発表会講演概要集，pp. 219-220，2011
14. 濱本憲一郎・二神透：地震時火災延焼システムを用いた酒田大火の検証に関する研究，平成 23 年度土木学会四国支部第十七回技術研究発表会講演概要集，pp. 221-222，2011
15. 大本翔平・二神透・濱本憲一郎：丸亀市城北地区への火災延焼シミュレーション・システムの適用と要因分析，平成 23 年度土木学会四国支部第十七回技術研究発表会講演概要集，pp. 223-224，2011

## 堤 純

### 社会貢献活動：

1. 2011. 7. 14：「松山を調査するー卒論とは？」，済美高校ヒューマンサイエンス事業，済美高校（200名）
2. 2011. 12. 7：「人文社会系の視点からみた基盤地図データの利活用」，愛媛地域連携協議会，基盤地図情報連絡会議，えひめ共催会館（50名）
3. 2012. 1. 10：「香川大学危機管理シンポジウムー防災・日本再生シンポジウムー」の共催，主催：香川大学危機管理研究センター，共催：地理情報システム学会四国支部他，サンポート高松（150名）

### 論文・研究発表：

1. 堤 純：8章 北海道：壮大なスケールの自然と大陸的風土. 菊地俊夫編『世界地誌シリーズ1 日本』，朝倉書店，pp. 140-159. 2011年4月
2. Tsutsumi, Jun and Parolin, Bruno：Time series skyline and employment changes in Sydney, Australia. Working paper presented to the IGU Urban Commission, Canterbury meeting, 2011年8月
3. 堤 純：メルボルン大都市圏における通勤特性-オーストラリア国勢調査「テーブルビルダー」データを利用して-. 統計（日本統計協会），63（2），pp. 19-25，2012年2月
4. 堤 純：シドニー市における高層建築物の供給過程とその特徴. 第4回 地理空間学会大会（2011年6月18日，筑波大学）
5. Tsutsumi, Jun and Parolin, Bruno：Time series skyline and employment changes in Sydney, Australia. International Geographical Union, Urban Commission on Monitoring Cities of Tomorrow (IGU Urban Commission, 2011年8月17日，Canterbury Christ Church University, UK).

## 木下 誠也

### 社会貢献活動：

1. 2011. 3. 30～4. 2：「東日本大震災被災地調査」，土木学会四国支部3大学被災地調査団
2. 2011. 4. 6：「震災の教訓」，いよ×一，NHK 松山支局

3. 2011. 4. 8 : 「公共事業の調達改革」, 土木学会建設マネジメント委員会公共事業改革プロジェクト小委員会, 国土技術研究センター
4. 2011. 4. 12 : 「東日本大震災被災地調査報告」, 土木学会四国支部 3 大学被災地調査団, 四国地方整備局
5. 2011. 4. 13 : 「東日本大震災被災地調査結果報告」, 愛媛大学
6. 2011. 4. 17~4. 19 : 「水ビジネス展開のための関経連共同委員会ベトナム訪問団参加」, 関西経済連合会
7. 2011. 4. 24 : 「愛南町緊急防災フォーラム」, 愛媛大学・愛南町
8. 2011. 4. 26 : 「国際大ダム会議環境委員会国内対応委員会」, ダム水源地環境整備センター (東京)
9. 2011. 4. 26 : 「公共事業改革プロジェクト小委員会」, 土木学会建設マネジメント委員会 (東京)
10. 2011. 4. 28 : 「震災対応緊急準備委員会」, 土木学会建設マネジメント委員会 (東京)
11. 2011. 5. 2~6 : 「東日本大震災被災地調査」, 木下誠也
12. 2011. 5. 9 : 「東日本大震災四国地方整備局報告会」, 四国地方整備局
13. 2011. 5. 10 : 「防災情報研究センター講演会」, 愛媛大学
14. 2011. 5. 11 : 「水ビジネス展開のための関経連共同委員会報告会」, 関西経済連合会
15. 2011. 5. 13 : 「土木学会四国支部講演会」, 土木学会四国支部
16. 2011. 5. 16 : 「防災講話」, 愛媛大学メディア映像部出演
17. 2011. 5. 16 : 「東日本大震災の教訓講演」, 松山商工会議所
18. 2011. 5. 17 : 「公共調達の今後」, 愛媛県地質調査業協会
19. 2011. 5. 20 : 「流域土砂管理研究会」, 流域水管理研究所 (東京)
20. 2011. 5. 23 : 「国際大ダム会議環境委員会国内対応委員会」, ダム水源地環境整備センター (東京)
21. 2011. 5. 24 : 「土木学会建設マネジメント委員会」, 土木学会 (東京)
22. 2011. 5. 25 : 「防災情報研究センター報告会」, 愛媛大学
23. 2011. 5. 26 : 「防災講話」, 愛媛大学メディア映像部出演
24. 2011. 5. 28~6. 5 : 「国際大ダム会議」, スイスルツェルン
25. 2011. 6. 6 : 「土木学会関西支部シンポジウム準備会」, 近畿建設協会
26. 2011. 6. 8 : 「東日本大震災について講演」, 四国中央市商工会議所
27. 2011. 6. 13 : 「公共事業改革プロジェクト小委員会」, 土木学会建設マネジメント委員会 (東京)
28. 2011. 6. 15 : 「地震報告会」, 愛媛大学
29. 2011. 6. 17 : 「流域土砂管理研究会」, 流域水管理研究所 (東京)
30. 2011. 6. 21 : 「中国地方整備局大規模地震対策検討委員会」, 中国地方整備局
31. 2011. 6. 24 : 「流域土砂管理研究会」, 流域水管理研究所 (東京)
32. 2011. 6. 27 : 「土木学会関西支部建設マネジメントシンポジウムコーディネーター」, 土木学会関西支部
33. 2011. 7. 3 : 「東温市防災フォーラム」, 愛媛大学・東温市
34. 2011. 7. 8 : 「公共事業改革プロジェクト小委員会」, 土木学会建設マネジメント委員会 (東京)
35. 2011. 7. 8 : 「関東スキルアップセミナー公共事業調達講演」, 関東地方整備局
36. 2011. 7. 12 : 「東日本大震災について講演」, 新居浜市市商工会議所
37. 2011. 7. 15 : 「社会連携研究協力会特別講演会」, 愛媛大学

38. 2011.7.16 : 「京都大学経営管理大学院建設マネジメント勉強会」, 京都大学経営管理大学院
39. 2011.7.22 : 「公共事業改革プロジェクト小委員会研究会」, 土木学会建設マネジメント委員会 (東京)
40. 2011.7.25 : 「公共事業改革プロジェクト小委員会」, 土木学会建設マネジメント委員会 (東京)
41. 2011.7.26 : 「直轄事業の生産性向上検討部会」, 国土交通省大臣官房
42. 2011.7.27 : 「日韓市民友好交流フォーラム講演」, 日韓友好協力会・愛媛大学
43. 2011.8.10 : 「日野川河川整備計画現地調査」, 中国地方整備局日野川河川事務所
44. 2011.8.11 : 「土木学会建設マネジメント委員会」, 土木学会 (東京)
45. 2011.8.11 : 「土木学会建設マネジメント委員会成果報告会」, 土木学会 (東京)
46. 2011.8.22 : 「流域土砂管理研究会」, 流域水管理研究所 (東京)
47. 2011.8.24 : 「愛媛防災フォーラム」, 愛媛県防災研究連携協議会
48. 2011.8.30 : 「公共事業調達改革講演」, 国土交通省松山会
49. 2011.9.7 : 「土木学会全国大会建設マネジメント研究討論会」, 土木学会 (会場: 愛媛大学)
50. 2011.9.12 : 「中国地方整備局大規模地震対策検討委員会」, 中国地方整備局
51. 2011.9.13 : 「日野川河川整備計画現地調査」, 中国地方整備局日野川河川事務所
52. 2011.9.20 : 「近畿地方災害報告会」, 愛媛大学
53. 2011.9.26 : 「四国水問題研究会」, 四国地方整備局
54. 2011.9.28 : 「東大建設マネジメント研究報告会」, 東京大学
55. 2011.10.12 : 「地震防災講演」, 内閣府沖縄総合事務局 (那覇)
56. 2011.10.17 : 「公共事業調達改革講演」, 東京
57. 2011.10.18 : 「建設物価調査会評価委員会」, 建設物価調査会 (東京)
58. 2011.10.28 : 「公共事業調達改革講演」, 日本橋梁建設協会 (大阪)
59. 2011.11.1 : 「国際大ダム会議環境委員会国内対応委員会」, ダム水源地環境整備センター (東京)
60. 2011.11.2 : 「四国地方地震防災アドバイザー会議」, 四国地方整備局
61. 2011.11.4 : 「建設マネジメント研究会」, 都市化研究公室 (東京)
62. 2011.11.11 : 「流域土砂管理研究会」, 流域水管理研究所 (東京)
63. 2011.11.21~22 : 「流域土砂管理天竜川現地研究会」, 中部地方整備局天竜川上流河川事務所ほか
64. 2011.12.1 : 「四国地方整備局技術開発懇談会」, 四国地方整備局・愛媛大学
65. 2011.12.5 : 「中国地方整備局大規模地震対策検討委員会」, 中国地方整備局
66. 2011.12.8 : 「タイ洪水現地調査団準備会議」, 国土交通省水管理・国土保全局
67. 2011.12.14 : 「土木学会建設マネジメント委員会」, 土木学会 (東京)
68. 2011.12.15 : 「土木学会建設マネジメント委員会研究発表会」, 土木学会 (東京)
69. 2011.12.20 : 「庄内川河川整備現地研究会」, 中部地方整備局庄内川河川事務所
70. 2012.1.5 : 「地震災害報告会」, 愛媛大学
71. 2012.1.11 : 「タイ洪水現地調査報告会」, 愛媛大学
72. 2012.1.13 : 「津波防災研究会」, 流域水管理研究所 (東京)
73. 2012.1.20 : 「建設物価調査会評価委員会」, 建設物価調査会 (東京)
74. 2012.1.24 : 「公共調達法対応準備委員会」, 土木学会建設マネジメント委員会 (東京)
75. 2012.1.27 : 「庄内川河川整備研究会」, 名古屋市

76. 2012. 1:30 : 「国際大ダム会議環境委員会国内対応委員会」, ダム水源地環境整備センター (東京)
77. 2012. 1:31 : 「中国地方整備局大規模地震対策検討委員会」, 中国地方整備局
78. 2012. 2. 1 : 「流域土砂管理研究会」, 流域水管理研究所 (東京)
79. 2012. 2. 3 : 「全日本建設技術講習会公共調達講演」, 全日本建設技術協会中部支部 (名古屋)
80. 2012. 2. 6 : 「土木学会四国支部講演会」, 土木学会四国支部 (松山)
81. 2012. 2. 10 : 「建設産業の動向講演」, 三井住友銀行 (東京)
82. 2012. 2. 10 : 「建設マネジメント研究会」, 都市化研究公室 (東京)
83. 2012. 2. 14 : 「社会資本整備の道筋 公共事業調達講演」, 愛媛大学
84. 2012. 2. 17 : 「河川整備研究助成審査部会」, 河川環境管理財団 (東京)
85. 2012. 2. 24 : 「流域土砂管理研究会」, 流域水管理研究所 (東京)
86. 2012. 2. 24 : 「総合研究開発機構防災マネジメント講演」, 総合研究開発機構 (東京)
87. 2012. 2. 27 : 「流域水管理評価委員会」, 流域水管理研究所 (東京)
88. 2012. 2. 29 : 「公共調達法対応準備委員会」, 土木学会建設マネジメント委員会 (東京)
89. 2012. 2. 29 : 「直轄事業の生産性向上検討部会」, 国土交通省大臣官房
90. 2012. 3. 2 : 「東京大学MKシンポジウム」, 東京大学 (柏市)
91. 2012. 3. 6 : 「四国水問題研究会」, 四国地方整備局
92. 2012. 3. 7 : 「土木学会水工学委員会研究発表会」, 土木学会 (会場: 愛媛大学)
93. 2012. 3. 8 : 「庄内川河川整備研究会」, 名古屋市
94. 2012. 3. 9 : 「河川文化を語る会防災シンポジウム」, 日本河川協会・愛媛大学
95. 2011. 3. 13 : 「土木学会建設マネジメント委員会」, 土木学会 (東京)
96. 2011. 3. 14 : 「流域土砂管理研究会」, 流域水管理研究所 (東京)
97. 2011. 3. 21 : 「自然災害フォーラム研究発表」, 土木学会四国支部ほか (高松)
98. 2011. 3. 22 : 「日野川河川整備計画現地調査」, 中国地方整備局日野川河川事務所
99. 2011. 3. 30 : 「東大建設マネジメント研究報告会」, 東京大学
100. 土木学会建設マネジメント委員会副委員長
101. 土木学会建設マネジメント委員会公共事業改革プロジェクト小委員会委員長
102. 京都大学経営管理大学院特命教授
103. 技術士試験委員会委員
104. 河川整備研究審査部会委員 (河川環境管理財団)
105. 国際大ダム会議環境委員会委員
106. 国際大ダム会議環境委員会国内準備委員会委員
107. 日本大ダム会議国際委員会委員
108. 流域水管理研究所企画運営委員長
109. 四国水問題研究会委員 (四国地方整備局)
110. 四国地震防災アドバイザー会議委員 (四国地方整備局)
111. 四国災害アーカイブズ事業検討委員会 (四国建設弘済会)
112. 建設物価調査会評価委員会委員 (建設物価調査会)
113. 中国地方整備局大規模地震対策検討委員会委員 (中国地方整備局)

114. 国土交通省直轄事業の生産性向上検討部会委員
115. 東京大学工学部社会基盤学科非常勤講師

論文・研究発表：

1. 木下誠也：公共事業改革プロジェクト小委員会成果報告書，土木学会建設マネジメント委員会，2011.8
2. 木下誠也：「2010年度世界大ダム会議環境委員会報告」，大ダム，2011.10
3. 木下誠也：わが国の公共工事の入札契約制度と企業評価制度の歴史的考察，東京大学学位論文，2011.10
4. 木下誠也，佐藤直良，松本直也：公共工事入札契約制度における企業評価方式の国際比較，土木学会建設マネジメント研究論文集，2011.12
5. 木下誠也：2011年タイ大洪水の発生要因，自然災害フォーラム研究論文集，2012.3
6. 木下誠也：公共事業改革プロジェクト小委員会成果報告，土木学会建設マネジメント委員会成果報告会，東京，2011.8
7. 木下誠也：公共工事入札契約制度における企業評価方式の国際比較，土木学会建設マネジメント研究発表会，東京，2011.12
8. 木下誠也：2011年タイ大洪水の発生要因，自然災害フォーラム，高松，2012.3

**山岸 宏光**

社会貢献活動：

1. 2011.4.16:「四国の防災にGISは役に立つか」宇和島青年会議所講演会，宇和島市商工会議所，宇和島市
2. 2011.7.22:「総論・ランドスライド，「総論・地すべり一般論」」地すべり技術講習会，全国地質調査業協会，岡山市 国際交流センター
3. 2011.8.31: Using GIS relationship between the heavy rainfall-induced landslides and slope gradients in Japan，地すべり学会平成23年度研究発表会講演集 P163，静岡市
4. 2011.10.27:「北海道地すべり地形デジタルマップ」の発刊にあたって，日本応用地質学会平成23年度研究発表会，札幌市
5. 2011.11.15:「防災のためのGIS入門「GIS day in 四国2011」」愛媛大学総合情報メディアセンター
6. 2011.11.26:「第3回GIS Landslide 研究会」つくば市防災科学技術研究所
7. 2012.1.10:「第5回四国GIS シンポジウム」，サンポール高松，高松市
8. 2012.2.28:「防災のためのGIS入門 肘川講演会」大洲市国道事務所
9. GIS Landslide 研究会，代表（全国）
10. GIS analyses of Landslides in Japanese Islands, ESRI, User Conference 2011, July 12, San Diego USA.
11. How to make landslide maps-for preventing Tegcigalpa city from landslides, September 28, 2011, UPI Tegcigalpa, Honduras.
12. Landslide Mapping and GIS analyses of landslides in Japanese Islands, CCOP Workshop Landslides in Southeast Asia, November 28, 2011, Bandung, Indonesia.



### 13. 国際雑誌 Landslides (Springer) の編集委員

#### 論文・研究発表：

1. Ayalew, L., Kasahara, M. and Yamagishi, H. (2011) Spatial correlation between earthquakes and landslides in Hokkaido, Japan, a GIS based analyses of the past and the future. Landslides, v. 8. 433-448.
2. Iwahashi, J., Kamiya I. and Yamagishi, H. (2012) Dealing with high-resolution DEMs in the study of rainfall- and earthquake-induced landslides: a variable window size method in digital terrain analysis. Geomorphology v. 153-154, 29-38.
3. 山岸宏光(2012) CCOP ワークショップ (東南アジアの土砂災害) 招聘, ニュース, 日本地すべり学会誌, 第 48 巻, 6 号。
4. 山岸宏光(2011) 書評:「改定新版 貯水池周辺の地すべりと対策」。地すべり学会誌 48 巻 2 号, 296 p.
5. 山岸宏光編著(2012) 北海道地すべり地形デジタルマップ (付 DVD), 北大出版会, 100p.

#### 松本 美紀

#### 社会貢献活動：

1. 2012. 01 : 「災害のおはなしー地震に強い『おうち』って?ー」, こども防災教室, ダイキ ゆめ・みらい住まいの創造かん (50 名)
2. 2012. 03 : 「災害心理学～避難心理・行動について～」, 四国アナウンス災害報道研究会 in 松山, NHK 松山放送局 (10 名)
3. 中国・四国学校保健学会 監事
4. 土木学会建設マネジメント委員会運営小委員会 委員 (土木学会) 2011. 09 まで
5. 愛媛県新長期計画策定会議 委員 (愛媛県)
6. 市民意見交換会 : 災害に強いまちづくり (松山市)
7. 愛南町防災教育連携協力協議会 委員 (愛南町)
8. 放送大学愛媛学習センター 非常勤講師
9. NPO 法人日本サイエンスサービス 参事

#### 論文・研究発表：

1. 松本美紀 : 技術力とは, 土木技術, Vol. 66, No. 2, pp. 78-81, 2011.
2. 松本美紀, 笛田俊治 : 被災可能性に対する不安尺度作成の提案-防災事業心理的効果の便益推計-, 土木学会第 66 回年次学術講演会 講演概要集, Vol. 66, CD-ROM, 2011.
3. 松本美紀 : 自主防災組織に期待されること, 調査研究情報誌 ECPR, No. 1, pp. 8-12, 2011.
4. 松本美紀, 矢田部龍一 : 被災可能性に対する不安尺度の開発 : 因子不変性の検討, 第 29 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会 講演集, Vol. 29, pp. 1-4, 2011.
5. 松本美紀, 矢田部龍一 : 被災可能性に対する不安尺度の開発 : 信頼性の検討, 土木学会論文集, F4 (建設マネジメント), Vol. 67, pp. 13-20, 2011.

## 5. 管理・運営

### 5.1 運営委員会議事録

平成 23 年度第 1 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 23 年 4 月 11 日(月) 10:35～11:30

場 所：愛大ミューズ 3 階 地域創成研究センターミーティングルーム

出 席：鳥居，高橋，矢田部，二神，木下，水沼

陪 席：竹内課長，筒井 TL，津守

議 事：

#### 1. 防災情報研究センターの新年度体制について

##### 1-1

鳥居センター長から，地域防災システム研究部門長の後任について，推薦があり，協議の結果了承された。

##### 1-2

鳥居センター長から，6 月 1 日付け新規採用予定教員について，資料 1-2 に基づき説明及び新体制のセンター長，副センター長の説明があり，協議の結果，了承された。

#### 2. 客員教授の採用について

鳥居センター長から，資料 2 に沿って説明があり，協議の結果，了承された。

報告事項：

#### 1. その他

##### 1-1 東日本大震災関連について

鳥居センター長から，資料「東日本大震災関連」に沿って，スケジュール等の確認があった。

矢田部部門長から，学生を主体としたボランティア募集について，SCV への声かけをすることの提言があり，今後検討していくこととなった。

高橋副センター長から，非常食の備蓄についての提言があった。

鳥居センター長から，愛媛大学の大学BCPを整えることについての提言があった。

また，毎月 1 回拡大会議を行う旨提案がされ，実施していくこととなった。

##### 1-2 ウィークリーえひめについて

鳥居センター長から，資料「ウィークリーえひめメール」に沿って，内容の報告がされた。

##### 1-3. 地域連携プロジェクトについて

鳥居センター長から，地域連携プロジェクト募集する旨の提言があった。

## 平成 23 年度第 2 回防災情報研究センター拡大運営委員会

日 時：平成 23 年 5 月 12 日(木) 15:30～15:50

場 所：愛大ミュージズ 3 階 地域創成研究センターミーティングルーム

出 席：鳥居，高橋，矢田部，二神，木下，水沼，山岸

陪 席：竹内課長，筒井 TL，津守

議 題：

### 1. 防災士養成講座カリキュラム（愛媛県）について

鳥居センター長から，資料 1 に沿って大学側として「地震のしくみと被害」と「最近の風水害」のカリキュラムを実施すること及び平成 24 年度から共通教育でのコース設置を今後検討していきたい旨説明があり，協議の結果，了承された。

### 2. 愛媛県の委託事業について

鳥居センター長から，愛媛県から宇和海沿岸市町の避難場所の適性検証及び現地調査研究委託について，協議の結果，了承された。

### 3. ホームページの改造についてについて

鳥居センター長から，資料 2 に沿って説明があり，協議の結果，大筋で了承されたが，HTML 形式でなく CMS 形式のものにすること及び学外のリンク先，センター報告の枠や大震災に関する枠を設ける等ホームページの充実に関する意見があった。また，階層構造設計書の提出が求められた。

報告事項：

### 1. 防災情報研究センターロゴマークについて

鳥居センター長から，資料 3 のロゴマーク&ロゴタイプを作成したことについて，報告があった。

### 2. その他

鳥居センター長から，7 月 3 日（日）に東温市で開催予定の防災キャラバンについて，協力要請があった。

## 平成 23 年度第 3 回防災情報研究センター拡大運営委員会

日 時：平成 23 年 6 月 15 日(水) 16:35～17:05

場 所：社会連携推進機構 2 階 研修室

出 席：鳥居，矢田部，二神，松尾，木下，山岸，松本

陪 席：筒井 TL，津守

議 題：

### 1. えひめ防災フォーラム 2011 の開催について

鳥居センター長から，えひめ防災フォーラム 2011 の次第案及び今後のスケジュールについて資料 1 と併せて説明があり，協議の結果，了承された。

### 2. 講師派遣要領について

鳥居センター長から，資料 2 に沿って説明があり，協議の結果，了承された。

報告事項：

1. センターHP, ロゴのビジュアルアイデンティティの策定について  
松本准教授から, 資料4に沿って進捗状況について報告があり, 委員から, トップページの一部修正及び英語版ホームページの作成について提案がされ, トップページの一部修正と英語版ホームページの作成をしていくこととなった。
2. 新地域防災システム研究部門長(松尾先生)の紹介について  
鳥居センター長から, 6月1日付防災情報研究センター(地域防災システム研究部門長)兼任教員となった松尾委員の紹介があり, 松尾委員から, 就任の挨拶があった。
3. 寄附金の受け入れについて  
鳥居センター長から, 資料3について, 目的に沿った寄附金の予算執行をしていく旨, 報告があった。

平成23年度第4回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成23年7月8日(金) 16:00～16:45

場 所：愛大ミューズ 3階 地域創成研究センターミーティングルーム

出 席：矢田部, 高橋, 板屋, 二神, 松尾, 水沼

陪 席：竹内課長, 筒井 TL, 津守

議 題：

1. 防災情報研究センターの組織改編について  
矢田部センター長から, 資料1に沿って説明があり, 協議の結果, 了承された。
2. 客員教授・客員准教授の採用について  
矢田部センター長から, 資料2に沿って説明があり, 協議の結果, 了承された。
3. 外部評価委員の選任について  
矢田部センター長から, 資料3に沿って説明があり, 協議の結果, 了承された。
4. えひめ防災フォーラムについて  
矢田部センター長から, 資料4に沿って, 当初からの変更点等について説明があり, 協議の結果, 了承された。
5. 愛媛地域防災力研究連携協議会について  
矢田部センター長から, 資料5に沿って説明があり, 協議の結果, 新体制に伴う組織図を変更すること, 今後実施する研究会開催時に, 複数の研究会に担当者が参加できる様な仕組みにするため, 各市町等担当者に希望を採ること及びパンフレットを改訂していくことが確認され, 了承された。

報告事項：

1. 防災キャラバン in 東温について  
矢田部センター長から, 資料6に沿って報告があり, 未開催の県内市町へ実績報告を行い, 防災キャラバンの実施について照会を行っていくことが確認された。
2. 愛媛地域防災力研究連携協議会について

矢田部センター長から、資料7に沿って報告があった。

3. 愛媛大学社会連携推進機構研究協力会総会について

矢田部センター長から、資料8に沿って報告があり、特別講演会及び交流会への出席参加について要請があった。

平成23年度第5回防災情報研究センター運営委員会

日時：平成23年9月12日(月) 16:40～17:30

場所：愛大ミューズ 3階 地域創成研究センターミーティングルーム

出席：矢田部，高橋，板屋，松尾，水沼

オブザーバ：山岸

陪席：筒井 TL，津守

議題：

1. 津波対策業務の概要と今後の展開について

板屋副センター長から、資料1に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

2. 防災キャラバン開催予定について

矢田部センター長から、資料2に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

3. 平成23年台風12号災害調査団の派遣と報告会の開催について

矢田部センター長から、資料3に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

4. 客員研究員について

矢田部センター長から、資料4に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

5. 「気候変動と自然災害からヒマラヤ地域を守る会」設立準備会の開催予定について

矢田部センター長から、資料5に沿って説明があり、協議の結果、一部修正のうえ、了承された。

6. 愛媛大学・蔚山大学合同学生セミナーの開催について

矢田部センター長から、資料6に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

7. 四国地域大学・四川大学合同防災セミナーの開催について

矢田部センター長から、資料7に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

8. えひめ防災フォーラム2011の報告書の作成について

矢田部センター長から、資料8に沿って説明があり、協議の結果、挨拶文及びパネリストのコメントを原稿起こしできたものからHPへアップし、最終的に報告書の作成を行うことで、了承された。

9. 平成23年度新居浜市総合防災訓練への参加及び協力実施要領について

矢田部センター長から、資料9に沿って説明があり、協議の結果、防災情報研究センター構成教員へ照会を行うことで、了承された。

報告事項：

1. えひめ防災フォーラム2011の総括報告

矢田部センター長から、資料10に沿って報告があり、今後のセンター主催の講演会について、確認された。

2. 愛媛地域防災力研究連携協議会の活動報告

矢田部センター長、高橋副センター長及び山岸教授から、資料 11 に沿って報告があり、GIS 研究会については、平成 25 年 3 月までの学生の教育についての行程表を提示することとなった。

3. 八幡浜市立病院の建替えに関する相談について

山岸教授から、資料 12 に沿って報告があった。

4. 防災講演会「津波防災を考える in 真穴」の開催報告

矢田部センター長から、資料 13 に沿って報告があった。

5. 愛媛県地盤工学研究会第 1 回特別講演会の開催報告

矢田部センター長から、資料 14 に沿って報告があった。

6. 国際フォーラム「ネパールの開発と観光年 2011 の推進をめざして」について

矢田部センター長から、資料 15 に沿って説明及び紹介があった。

7. ネパール元首相マダブ・ネパール氏歓迎会開催案内について

矢田部センター長から、資料 16 に沿って説明及び紹介があった。

平成 23 年度第 6 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 23 年 10 月 26 日(水) 11:00～11:45

場 所：愛大ミュージズ 3 階 地域創成研究センターミーティングルーム

出 席：矢田部、板屋、松尾、吉井、榊原、木下、水沼

陪 席：筒井 TL、大野

議 題：

1. 防災情報研究センター兼任教員について

矢田部センター長から、資料 1 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

2. 外国語版 HP について

矢田部センター長から、資料 2 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

3. 合同総合防災訓練の共催について

矢田部センター長から、資料 3 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

4. 平成 23 年度愛媛県津波避難訓練について

板屋副センター長から、資料(追加)に沿って説明及びセンター教員への協力要請があり、協議の結果、了承された。

報告事項：

1. 防災キャラバン in 新居浜市開催報告

矢田部センター長から、資料 4 に沿って報告があった。

2. 愛媛県下行政相談委員研修会開催報告

矢田部センター長から、資料 5 に沿って報告があった。

3. 記録的豪雨をもたらした平成 23 年台風災害の調査速報会の開催報告

板屋副センター長から、現地調査について報告があった。

4. 「平成 23 年度台風 15 号災害の状況」報告会開催報告  
板屋副センター長から、状況報告会について報告があった。
5. 蔚山大学土木環境学部と建設環境問題に関するジョイントセミナー開催報告  
矢田部センター長から、資料 8 に沿って報告があった。
6. 四川大地震復興調査ならびに道路建設に関するジョイントセミナー開催報告  
矢田部センター長から、資料 9 に沿って報告があった。
7. 国際フォーラム「ネパールの開発と観光年 2011 の推進をめざして」開催報告  
矢田部センター長から、資料 10 に沿って報告があった。
8. 松山市ラウンドテーブル（市民意見交換会）委員の推薦について  
矢田部センター長から、資料 11 に沿って報告があった。
9. 愛媛県労働者福祉協議会の開催について  
矢田部センター長から、資料 12 に沿って説明及び紹介があった。
10. 伊方町老人クラブ連合会防災講演会の開催について  
矢田部センター長から、資料 13 に沿って説明及び紹介があった。
11. 震災復興シンポジウムの開催について  
矢田部センター長から、資料 14 に沿って説明及び紹介があった。

その他

1. 講演依頼について  
矢田部センター長から、外部からの講演依頼については、原則として、本センターが共催か後援が可能であれば引き受けること及び実施講演について整理する旨要請があった。
2. 勉強会について（NHK）  
板屋副センター長から、津波・避難・防災関係について、NHK から来年 3 月 3 日、4 日の勉強会の依頼が来る旨報告があった。

平成 23 年度第 7 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 23 年 11 月 21 日（月） 16:00～16:35

場 所：愛大ミュージズ 3 階 地域創成研究センターミーティングルーム

出 席：矢田部，板屋，松尾，吉井，榊原，水沼

オブザーバ：山岸，松本

陪 席：竹内課長，筒井 TL，大野

議 題：

1. 外部評価委員について  
矢田部センター長から、資料 1 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

報告事項：

1. 研究会の活動計画について  
各研究会担当者から、各会活動工程について報告があった。

- ・避難問題研究会及び防災教育研究会（矢田部センター長）資料 2
  - ・BCP研究会（板屋副センター長）
  - ・GIS研究会（山岸教授）資料 2
  - ・自主防災研究会（松本准教授）資料 2
2. 大分県法面協会技術講演会実施報告  
矢田部センター長から、資料 3 に沿って報告があった。
  3. コープえひめ「虹の会」防災講演会実施報告  
矢田部センター長から、資料 4 に沿って報告があった。
  4. 愛媛勤労者福祉研究集会防災講演会実施報告  
矢田部センター長から、資料 5 に沿って報告があった。
  5. 愛媛大学防災情報研究センター・西予市連携防災講演会実施報告  
矢田部センター長から、資料 6 に沿って報告があった。
  6. 総合防災訓練実施報告  
矢田部センター長から、資料 7 に沿って報告があった。
  7. 震災復興シンポジウム実施報告  
矢田部センター長から、資料 8 に沿って報告があった。
  8. 伊方町老人クラブ連合会防災講演会実施報告  
矢田部センター長から、資料 9 に沿って報告があった。
  9. 建設BCPセミナー開催について  
板屋副センター長から、資料 10 に沿って説明及び紹介があった。
  10. 愛媛県消防協会正副団長等研修会開催について  
矢田部センター長から、資料 11 に沿って説明及び紹介があった。
  11. だんだん肱川開催について  
板屋副センター長から、資料 12 に沿って説明及び紹介があった。
  12. 2011年ネパール防災関連セミナー他  
矢田部センター長から、資料 13 に沿って説明及び紹介があった。

#### その他

1. バンコクの浸水被害について  
板屋副センター長から、バンコクの浸水被害に対する現況報告があり、矢田部センター長から、今回の浸水に対する日本企業の被害金額及び企業の現地進出に当たってのリスクマネジメント方法を調査する旨要請があった。
2. メールマガジン会員について  
矢田部センター長から、各種講演会で集まった各事務局のメールアドレスの管理について要請があった。



## 平成 23 年度第 8 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 23 年 12 月 8 日(水) 10:30～11:00

場 所：愛大ミュージズ 3 階 地域創成研究センターミーティングルーム

出 席：矢田部, 高橋, 板屋, 松尾, 木下, 水沼

陪 席：竹内課長, 筒井 TL, 大野

議 題：

1. 国立大学法人愛媛大学防災情報研究センターと南アジア地域協力連合自然災害管理センターとの学術交流に関する協定書締結について  
矢田部センター長から、資料 1 に沿って説明があり、協議の結果、一部修正のうえ、了承された。
2. 外部評価委員会の開催について  
矢田部センター長から、資料 2 に沿って説明があり、協議の結果、1 月開催で調整することで了承された。

報告事項：

1. こども防災教室開催について  
矢田部センター長から、資料 3 に沿って報告があった。
2. 防災キャラバン in 松山開催について  
矢田部センター長から、資料 4 に沿って報告があり、対象者を防災士、消防団、教育者及び町内会長等とすることとなった。
3. ネパール関連防災プログラム開催報告  
矢田部センター長から、資料 5 に沿って報告があった。
4. 愛媛県消防協会正副団長等研修会実施報告  
矢田部センター長から、資料 6 に沿って報告があった。

その他

1. バンコクの浸水被害について  
木下教授から、バンコクの浸水被害に対する現地調査を 12 月 21 日から 29 日の間、国土交通省等とともに行う旨報告があり、矢田部センター長から、自然災害リスクについて検討できる仕組み作りをする旨要請があった。
2. 津波対策について  
板屋副センター長から、宇和海沿岸 5 市町の避難地、避難経路の点検及び現地調査の進捗状況について報告があり、矢田部センター長から、現地調査の方法について、住民の協力を得られる仕組み作りをする旨要請があった。
3. 防災情報研究センター新年度体制について  
矢田部センター長から、防災情報研究センター新年度体制について、事務手続きの確認がされた。

平成 23 年度第 9 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 24 年 1 月 26 日(水) 16:00～16:50

場 所：愛大ミュージズ 3 階 地域創成研究センターミーティングルーム

出 席：矢田部, 高橋, 板屋, 松尾, 木下, 水沼

陪 席：竹内課長, 筒井 TL, 大野

議 題：

1. 愛媛大学防災情報研究センター特定教員の採用について  
矢田部センター長から、資料 1 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。
2. アジア圏との連携による東南海・南海地震研究の国際展開について  
矢田部センター長から、資料 2 に沿って説明があり、協議の結果、1 月開催で調整することで了承された。
3. 平成 23 年度防災情報研究センター活動報告会の開催日程と内容について  
矢田部センター長から、資料 2 に沿って説明があり、協議の結果、1 月開催で調整することで了承された。
4. えひめ防災フォーラム 2012 の開催日程と内容について  
矢田部センター長から、資料 2 に沿って説明があり、協議の結果、1 月開催で調整することで了承された。

報告事項：

1. 「日本再構築 社会資本整備の新たな道筋（仮称）」の開催について  
矢田部センター長から、資料 3 に沿って報告があった。
2. 外部評価委員会開催報告  
矢田部センター長から、資料 4 に沿って報告があり、対象者を防災士、消防団、教育者及び町内会長等とすることとなった。
3. だんだん肱川開催報告  
矢田部センター長から、資料 5 に沿って報告があった。
4. 防災キャラバン in 伊予市開催報告  
矢田部センター長から、資料 6 に沿って報告があった。
5. 東北地方太平洋沖地震災害調査・四川大地震調査報告会実施報告  
矢田部センター長から、資料 6 に沿って報告があった。
6. タイの洪水に関する現地調査報告  
矢田部センター長から、資料 4 に沿って報告があり、対象者を防災士、消防団、教育者及び町内会長等とすることとなった。
7. こども防災教室  
矢田部センター長から、資料 5 に沿って報告があった。
8. 国際講演会  
矢田部センター長から、資料 6 に沿って報告があった。

9. 平成 23 年度愛媛県津波避難訓練

矢田部センター長から、資料 6 に沿って報告があった。

10. 河川文化を語る会の開催について

矢田部センター長から、資料 6 に沿って報告があった。

その他

1. 四国地域防災リスクマネジメント特別コースの設置について

木下教授から、バンコクの浸水被害に対する現地調査を 12 月 21 日から 29 日の間、国土交通省等とともにを行う旨報告があり、矢田部センター長から、自然災害リスクについて検討できる仕組み作りをする旨要請があった。

平成 23 年度第 10 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 24 年 2 月 17 日(金) 14:10～14:40

場 所：愛大ミュージズ 3 階 地域創成研究センターミーティングルーム

出 席：矢田部，高橋，相引，松尾，水沼

陪 席：上田副課長，筒井 TL，大野

議 題：

1. 愛媛大学防災情報研究センター兼任教員について

矢田部センター長から、資料 1 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

2. 愛媛大学防災情報研究センター客員教授・准教授の任用更新について

矢田部センター長から、資料 2 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

3. 外部評価委員の任用更新の任用更新について

矢田部センター長から、資料 3 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

4. 防災情報研究センターHP英語版について

矢田部センター長から、資料 4 に沿って説明があり、協議の結果、翻訳ソフトを使用せず、矢田部センター長に翻訳を一任することで、了承された。

5. 愛媛県津波防災セミナー（案）の開催について

矢田部センター長から、資料 5 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

6. 防災と南海地震に備える特別番組について

矢田部センター長から、資料 6 に沿って説明があり、協議の結果、一部修正のうえ、了承された。

7. 平成 23 年度愛媛大学と西日本高速道路株式会社四国支社及び西日

本高速道路エンジニアリング四国株式会社との連携推進会議について

矢田部センター長から、資料 7 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

8. 社会福祉施設防災研修会について

矢田部センター長から、資料 8 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

9. 伊予市婦人防火クラブ講演会について

矢田部センター長から、資料 9 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

10. 医療研修会について

矢田部センター長から、資料 10 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

11. 防災キャラバン in 松山

矢田部センター長から、資料 11 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。また、24 年度の松山市の防災訓練について確認することとなった。

報告事項：

1. 「日本再構築 社会資本整備の新たな道筋」の開催報告

矢田部センター長から、資料 12 に沿って報告があった。

平成 23 年度第 11 回防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成 24 年 3 月 30 日(金) 16:10～16:40

場 所：社会連携推進機構 2 階 研修室

出 席：矢田部，高橋，相引，松尾，水沼

陪 席：竹内課長，筒井 TL，大野

議 題：

1. 愛媛大学防災情報研究センターパンフレット改訂について

矢田部センター長から、資料 1 に沿って説明があり、協議の結果、分担し、作成することで了承された。

2. アジア防災センター客員研究員への講義について

矢田部センター長から、資料 2 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

3. 愛媛大学防災情報研究センターと DAIKI の防災連携について

矢田部センター長から、資料 3 に沿って説明があり、協議の結果、了承された。

報告事項：

1. 「内子町教育研究所研究大会」の開催報告

矢田部センター長から、資料 4 に沿って報告があった。

2. 「社会福祉施設防災研修会」の開催報告

矢田部センター長から、資料 5 に沿って報告があった。

3. 「伊予市婦人防火クラブ講演会」の開催報告

矢田部センター長から、資料 6 に沿って報告があった。

4. 「防災と南海地震に備える特別番組」の開催報告

矢田部センター長から、資料 7 に沿って報告があった。

5. 「アジア太平洋地域の災害を語る」の開催報告

矢田部センター長から、資料 8 に沿って報告があった。

6. 「防災キャラバン in 松山」の開催報告

矢田部センター長から、資料 9 に沿って報告があった。

7. 「愛媛糖尿病チーム医療研修会」の開催報告

矢田部センター長から、資料 10 に沿って報告があった。

#### 8. 「津波防災セミナー」の開催報告

矢田部センター長から、資料 11 に沿って報告があった。

### 5.2 外部評価委員会議事録

平成 23 年度防災情報研究センター前期外部評価委員会

日 時：平成 24 年 1 月 19 日（水） 13：30～15：00

場 所：愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室

出席者：放送大学 愛媛学習センター 所 長 森 孝明  
南海放送（株）報道制作センター部長 白石 享三  
愛媛県技術士会会長 須賀 幸一  
（株）いよぎん地域経済研究センター取締役社長 山崎 正人

陪 席：矢田部，高橋，板屋，相引，吉井，木下，水沼，筒井，大野

議 事：

#### 1. センター活動の概要報告

審議に先立ち委員長から、審議の背景となるセンター活動の概要説明を求め、センター長から説明を行った。

#### 2. 受託研究及び共同研究に対する評価審査

審議に先立ちセンター長から、寄附研究部門についても審議対象とする要請があり、了承された。委員長から、平成 23 年度前期に受け入れた受託研究 3 件、共同研究 1 件及び寄附研究部門 1 件について内容説明を求め、研究担当者等の説明を行った。

- |                       |       |       |
|-----------------------|-------|-------|
| ・ 史跡永納山城跡石材調査研究研究担当者  | 研究担当者 | 榊原 正幸 |
|                       | 説明者   | 矢田部龍一 |
| ・ 四国地域に分布する九州起源火山灰の研究 | 研究担当者 | 榊原 正幸 |
|                       | 説明者   | 矢田部龍一 |
| ・ 土砂管理方策に関する研究        | 研究担当者 | 木下 誠也 |
|                       | 説明者   | 木下 誠也 |
| ・ 津波災害対策実地検証          | 研究担当者 | 板屋 英治 |
|                       | 説明者   | 板屋 英治 |
| ・ 寄附研究部門 東南海・南海地震研究部門 | 説明者   | 矢田部龍一 |

説明の後、各研究について活発な質疑応答の結果、問題なく了承された。

#### 3. センター活動への助言

白石委員から、意識・知識が手薄な B C P について、防災センターが情報発信や啓発活動をこれまで以上におこなって頂きたい旨意見があった。

平成 23 年度防災情報研究センター後期外部評価委員会

日 時：平成 24 年 3 月 27 日（水） 13：00～14：30

場 所：愛大ミュージズ 3 階 地域創成研究センターミーティングルーム

出席者：南海放送（株）報道制作センター部長 白石 享三

放送大学 愛媛学習センター所長 森 孝明

（株）いよぎん地域経済研究センター取締役社長 山崎 正人

陪 席：矢田部，相引，松尾，榊原，木下，門田，筒井，大野

議 事：

1. センター活動の概要報告

審議に先立ち委員長から，審議の背景となるセンター活動の概要説明を求め，センター長から説明を行った。

2. 受託研究に対する評価審査

委員長から，平成 23 年度下期に受け入れた受託研究 4 件について内容説明を求め，研究担当者等の説明を行った。

・葉佐池古墳安定性調査	研究担当者	矢田部龍一
	説明者	矢田部龍一
・肱川河川管理方策検討業務	研究担当者	門田 章宏
	説明者	門田 章宏
・橋梁長寿命化修繕計画の検証に関する調査研究	研究担当者	森 伸一郎
	説明者	矢田部龍一
・水域生物を指標とした瀬切れ河川影響評価検討	研究担当者	矢田部龍一
	説明者	矢田部龍一

説明の後，各研究について活発な質疑応答の結果，問題なく了承された。

3. センター活動への助言

良好な活動が行われている。

## 6. 規程等

### 6.1 愛媛大学防災情報研究センター規則

〔平成18年4月1日  
規則第 64号〕

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同施設として、自然科学と防災技術の融合により自然災害の実態を解明し、防災・減災のための新たな学際分野を創出し、もって地域の人材育成を含めた地域防災の拠点としてアジア及び地域社会に貢献することを目的とする。

(研究部門等)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 災害救急医療・ケア研究部門
- (2) 地域防災システム研究部門
- (3) 社会基盤整備部門
- (4) アジア・地域防災情報ネットワーク部門
- (5) 東南海・南海地震研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、センターに地域サテライトを置くことができる。

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 寄附研究部門教員
- (5) 兼任教員
- (6) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

2 第2条の目的を達成するため、必要に応じて特定領域の学識を有する専任教員を置くことができる。

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、国立大学法人愛媛大学社会連携推進機構管理委員会（以下「管理委員会」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

(緊急対策委員会)

第7条 センターに、緊急の防災対策を検討するために緊急対策委員会を置くことができる。

(センター長)

第8条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから管理委員会が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第9条 副センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された副センター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（部門長）

第10条 部門長は、当該部門の寄附研究部門教員又は兼任教員のうちから、センター長が委嘱する。

2 部門長の委嘱期間は、センター長が定める。ただし、委嘱期間の末日は、当該部門長を委嘱するセンター長の任期の末日を超えないものとする。

（寄附研究部門教員）

第11条 寄附研究部門教員は、管理委員会が推薦し、学長が選考する。

（兼任教員）

第12条 兼任教員は、本学の専任教員のうちからセンター長の推薦により、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

（職務）

第13条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長から指示された具体的な事項を行う。

3 部門長は、当該部門の業務を処理する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

（協力教員）

第14条 センターに、協力教員を置くことができる。

2 協力教員は、センター長があらかじめ定めた期間、センターの活動に参加することができる。

3 協力教員は、本学の専任教員のうちから、センター長が委嘱する。

（客員教授等）

第15条 センターに、客員教授等を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、愛媛大学客員教授等選考基準の定めるところによる。

（客員研究員）

第16条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

（事務）

第17条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

（雑則）

第18条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。



附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年10月14日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

## 6.2 愛媛大学防災情報研究センター運営委員会規程

平成18年4月1日  
規則第 65 号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 社会連携支援部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

### 6.3 愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程

平成 18 年 11 月 10 日  
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）における外部評価（以下「評価」という。）の実施に関する基本的事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 評価は、愛媛大学以外の機関等から申込のあった共同研究及び受託研究が、愛媛大学において受け入れる研究としてふさわしいものであるかについて客観的な立場で検証し、その評価及び改善への助言等を行うことにより、共同研究及び受託研究の業務の適正化を図り、もって、センターの円滑な運営に資するものとする。

(評価審査)

第3条 評価に係る審査は、法令、学内諸規則及び社会良識に照らして厳正中立に行わなければならない。

2 評価審査の結果には、共同研究及び受託研究を実施する上での問題点の有無等について、その具体的な判断理由を明示するものとする。

(審査機関)

第4条 前条の審査を行うために、センターに愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を置く。

2 外部評価委員会に関する事項は、別に定める。

(審査の時期)

第5条 審査は、原則として、半期ごとの定期審査とする。

2 外部評価委員会への審査の要請は、センター長が行う。

(審査結果の効力)

第6条 センター長は、外部評価委員会の定期審査による評価及び改善への助言等を十分に尊重し、共同研究及び受託研究の実施にあたらなければならない。

(事務)

第7条 センターの外部評価に関する事務は、社会連携支援部社会連携課が所掌する。

附 則

この規程は、平成 18 年 11 月 10 日から施行する。

## 6.4 愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要項

平成 18 年 11 月 10 日  
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程第4条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 共同研究及び受託研究のテーマ又は内容が、学術的又は社会貢献としての価値を損なうものでないか。
- (2) 共同研究又は受託研究を実施する者が、社会規範を逸脱したと思われる行為を行っていないか。
- (3) 前各号のほか、愛媛大学（以下「本学」という。）が実施するにふさわしくない事情が認められないか。

(組織)

第3条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる本学外の委員をもって組織する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の学術分野に関連のある有識者 2人
- (2) 民間機関の有識者 2人
- (3) その他社会連携推進機構長が必要と認めた者

2 前項第2号の委員は、同一の機関から選出することができない。

3 第1項の委員は、社会連携推進機構長が推薦し、学長が任命する。

4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときは直ちにこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 外部評価委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選とする。

2 委員長は、センター長の要請に基づき外部評価委員会を開催し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(審査結果の報告)

第7条 委員長は、外部評価委員会における評価の審査結果を、速やかにセンター長に報告しなければならない。

(事務)

第8条 外部評価委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

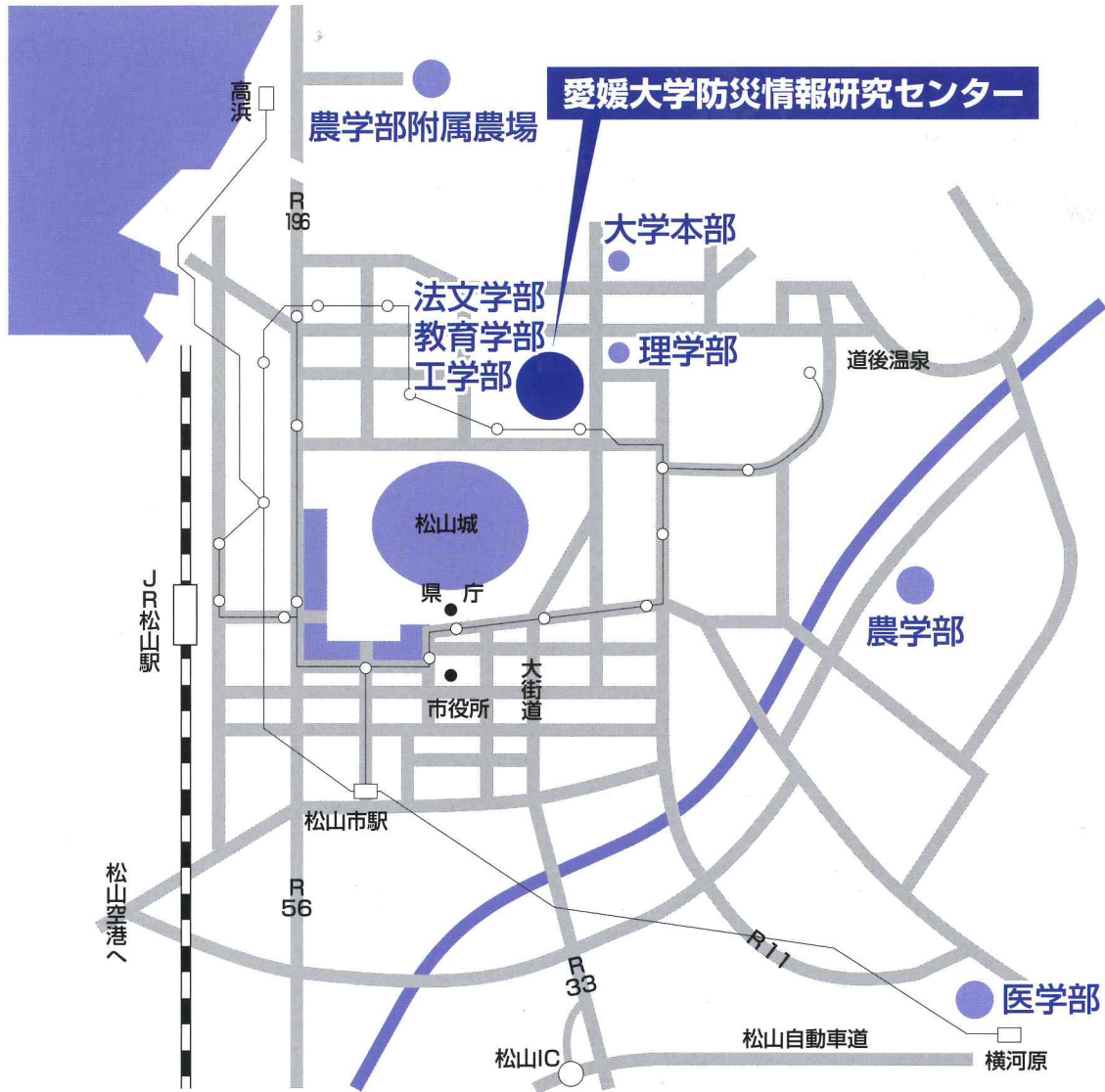
第9条 この要項に定めるもののほか、外部評価委員会の審査に関し必要な事項は、外部評価委員会が定める。

附 則

1 この要項は、平成18年11月10日から施行する。

2 この要項施行後、最初に任命される第3条第1項各号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

# 愛媛大学案内図



本センターに関する問い合わせ、照会等は下記へご相談ください。

## 愛媛大学防災情報研究センター

〒790-8577 松山市文京町3番

TEL (089) 927-8974

FAX (089) 927-8820